
平成25年度 事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)



日本医科大学



日本獣医生命科学大学

学校法人 日本医科大学

目次

I 学校法人の概要

1	学是と教育理念	1
2	沿革	2 ～ 4
3	法人が設置する教育研究機関、付置施設	5
4	所在地一覧	6 ～ 10
5	法人の組織機構	11 ～ 13
6	役員等一覧	14
7	教職員数一覧	15
8	学生数	16
9	入試状況、国家試験、学位授与	17
10	研修医採用・専修医採用・他施設との交流等	18 ～ 19
11	管理運営等	20 ～ 29

II 事業の概要

1	教育活動	30 ～ 32
2	研究活動	33 ～ 34
3	医療活動	35 ～ 42
4	学生支援活動	43 ～ 44
5	国際交流活動	45 ～ 48
6	地域連携活動	49

III 財務の概要

1	資金収支計算書	50
2	消費収支計算書	51 ～ 52
3	貸借対照表	53
4	財産目録	54
5	財務状況の推移	55 ～ 57

I 学校法人の概要

1.学是と教育理念

(1) 日本医科大学

学是 克己殉公

教育理念 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成

日本医科大学は、1876年に長谷川泰により創設された済生学舎を前身とし、創立130年を超えるわが国最古の私立医科大学である。本学の源流である済生学舎は、その建学の精神を「済生救民」・「克己殉公」として、「己の欲望を捨て、貧しく病で苦しむ人々を救う」ことへの実践を目的に創立された。その建学の精神は、時代の変遷を経て今なお日本医科大学の学是として、明日の医療を担う学生たちに脈々と受け継がれている。

(2) 日本獣医生命科学大学

学是 敬讓相和

到達目標 愛と科学の聖業を培う

教育理念 愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成

日本獣医生命科学大学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」であり、学是は「敬讓相和」である。その意味は、謙讓と協調、慈愛と人倫を育む科学の創生を説いた箴言である。本学の目的は、新世紀における生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、総合的な《生命科学の知と技》を練磨すると共に、《人間愛・動物愛》の豊かで清冽な人材の育成にある。

(3) 日本医科大学看護専門学校

教育理念 克己殉公

私心を捨て社会に貢献する。

己に打ち克ち、公のために生きる。

日本医科大学の建学の精神を基盤に、自律性、主体性、創造性に富む豊かな人間性を培う。共同存在を基盤とした関係を築きながら、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる看護師を育成する。

2. 沿革

【略年譜】

- 明治9年 (1876) 済生学舎設立 (実質的な日本医科大学の前身)
- 明治14年 (1881) 私立獣医学校設立 (日本獣医生命科学大学の前身)
- 明治22年 (1887) 私立獣医学校を閉校
- 明治25年 (1892) 私立東京獣医学校として再興 (旧私立獣医学校)
- 明治35年 (1902) 私立東京獣医学校を再び閉校
- 明治36年 (1903) 済生学舎廃止
- 明治37年 (1904) 私立日本医学校設立
- 明治43年 (1910) 私立日本医学校は私立東京医学校を買収
日本医科大学付属駒込医院開院 (現在の日本医科大学付属病院)
- 明治44年 (1911) 私立日本獣医学校開校 (旧私立獣医学校及び旧私立東京獣医学校の系統を継ぐ)
私立日本医学校を本郷区本駒込千駄木町へ移転
- 明治45年 (1912) 財団法人私立日本医学専門学校設立認可
私立日本医学校を私立日本医学専門学校に改称
日本医学専門学校付属本郷医院開設
- 大正8年 (1919) 財団法人私立日本医学専門学校を財団法人日本医学専門学校に改称
私立日本医学専門学校を日本医学専門学校に改称
- 大正9年 (1920) 日本医学専門学校予科設置
- 大正10年 (1921) 日本医学専門学校付属医院看護婦講習科を開設
- 大正11年 (1922) 日本医学専門学校付属医院看護婦講習科が看護婦規則により講習所として指定される。
- 大正13年 (1924) 日本医学専門学校付属飯田町医院開設許可
- 大正15年 (1926) 財団法人日本医学専門学校を財団法人日本医科大学に改称
大学令により日本医科大学に昇格、予科併設
日本医科大学付属飯田町医院を日本医科大学付属第一医院に改称
日本医科大学付属本郷医院を日本医科大学付属第二医院に改称
日本医学専門学校を日本医科大学専門部に改称
- 昭和6年 (1931) 日本医科大学専門部を廃止
- 昭和7年 (1932) 日本医科大学予科を神奈川県橘樹郡中原町に移転
- 昭和10年 (1935) 日本医科大学付属第一医院に看護婦講習所設置
- 昭和12年 (1937) 日本医科大学付属丸子病院開設
- 昭和13年 (1938) 財団法人日本高等獣医学校の設立が許可され、設置
- 昭和14年 (1939) 私立日本獣医学校廃校
日本医科大学付属第二医院に看護婦講習所設置
- 昭和15年 (1940) 日本医科大学付属丸子病院を日本医科大学付属第三医院に改称
- 昭和19年 (1944) 専門学校令により日本医科大学付属医学専門部設置

- 昭和20年（1945） 財団法人日本高等獣医学校を財団法人日本獣医畜産専門学校に改称
日本高等獣医学校を日本獣医専門学校に改称
- 昭和22年（1947） 日本獣医畜産専門学校に獣医科及び畜産科を設置
- 昭和24年（1949） 新制大学昇格の許可を得、財団法人日本獣医畜産専門学校を財団法人日本獣医畜産大学に改称、大学内に獣医学科及び畜産学科を設置
- 昭和25年（1950） 日本医科大学付属医学専門部廃止
- 昭和26年（1951） 財団法人日本医科大学を学校法人日本医科大学に改組
財団法人日本獣医畜産大学を学校法人日本獣医畜産大学に改組
学制改正により日本医科大学予科廃止
看護婦講習所廃止
- 昭和27年（1952） 新制日本医科大学設立
学校法人日本医科大学と学校法人日本獣医畜産大学が合併し、学校法人日本医科大学となる。
- 昭和28年（1953） 日本獣医畜産大学に教職課程設置
日本医科大学付属准看護学院設置
- 昭和29年（1954） 日本医科大学付属第二医院を日本医科大学付属医院に改称
日本医科大学付属第三医院を日本医科大学付属第二医院に改称
- 昭和30年（1955） 日本医科大学医学進学課程設置
- 昭和35年（1960） 日本医科大学大学院医学研究科（博士課程）設置
- 昭和36年（1961） 旧制日本医科大学廃止
- 昭和37年（1962） 日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科（博士課程・修士課程）設置
- 昭和38年（1963） 日本医科大学付属医院を日本医科大学付属病院に改称
日本医科大学付属第一医院を日本医科大学付属第一病院に改称
日本医科大学付属第二医院を日本医科大学付属第二病院に改称
- 昭和39年（1964） 日本医科大学付属高等看護学院設置
- 昭和40年（1965） 日本医科大学付属高等看護学院に別科併設
- 昭和41年（1966） 日本衛生技術専門学院設置
- 昭和42年（1967） 日本獣医畜産大学に畜産食品工学科設置
- 昭和43年（1968） 社団法人老人病研究会付置老人病研究所を本法人に移管し、日本医科大学老人病研究所設置
- 昭和45年（1970） 日本医科大学医学進学課程、専門課程を一本化し、6年制一貫教育実施
- 昭和47年（1972） 日本医科大学付属第二高等看護学院設置
日本医科大学ワクチン療法研究施設設置
- 昭和48年（1973） 日本医科大学付属准看護学院を廃止
- 昭和50年（1975） 日本医科大学専門課程を廃止
- 昭和51年（1976） 日本医科大学付属第二高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学丸子看護専門学校に改称
- 昭和52年（1977） 日本医科大学付属多摩永山病院開院
- 昭和53年（1978） 日本医科大学付属高等看護学院を専修学校として設置、日本医科大学看護専門学校（第一看護科・第二看護科）に改称

	日本衛生技術専門学院を日本医学技術専門学校に改称
昭和57年 (1982)	日本獣医畜産大学獣医学科修士積み上げ方式による6年制を開始
昭和59年 (1984)	日本獣医畜産大学獣医学科、学校教育法一部改正により6年制一貫教教育に移行
昭和61年 (1986)	学校法人日本医科大学国際交流センター設置
昭和62年 (1987)	日本医科大学看護専門学校第二看護科廃止、同第一看護科を看護科に改称
平成4年 (1992)	日本医科大学新東京国際空港クリニック開院
平成5年 (1993)	日本医科大学千葉看護専門学校開校
平成6年 (1994)	日本医科大学付属千葉北総病院開院
平成9年 (1997)	日本医科大学腎クリニック開院 日本医科大学付属第一病院閉院
平成11年 (1999)	日本医科大学看護専門学校を廃止
平成12年 (2000)	日本医科大学丸子看護専門学校を廃止 日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産食品工学科を食品科学科に改称
平成13年 (2001)	日本獣医畜産大学獣医畜産学部の畜産学科を動物科学科に改称
平成15年 (2003)	日本獣医畜産大学の獣医畜産学部を獣医学部に改称し、応用生命科学部を設置 (獣医学部獣医学科、応用生命科学部動物科学科、応用生命科学部食品科学科に改組) 日本獣医畜産大学動物保健学別科設置 日本獣医畜産大学獣医学部付属動物医療センター開院 日本医科大学付属病院呼吸ケアクリニック開院
平成16年 (2004)	日本医科大学新東京国際空港クリニックを日本医科大学成田国際空港クリニックに改称
平成17年 (2005)	日本医学技術専門学校を廃止 日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科を日本獣医畜産大学大学院獣医生命科学研究科に改称 日本獣医畜産大学獣医学部に獣医保健看護学科を設置 日本医科大学千葉看護専門学校を日本医科大学看護専門学校に改称
平成18年 (2006)	日本医科大学健診医療センター開院 日本獣医畜産大学動物保健学別科を廃止 日本獣医畜産大学を日本獣医生命科学大学に改称
平成19年 (2007)	日本医科大学付属第二病院を日本医科大学武蔵小杉病院に改称 日本医科大学付属多摩永山病院を日本医科大学多摩永山病院に改称 日本医科大学付属千葉北総病院を日本医科大学千葉北総病院に改称
平成20年 (2008)	日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科応用科学専攻に博士前期課程(2年制)及び博士後期課程(3年制)を設置
平成21年 (2009)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻修士課程(2年制)を新たに設置
平成23年 (2011)	日本獣医生命科学大学大学院生命科学研究科に獣医保健看護学専攻に専攻に博士前期課程(2年制)及び博士後期課程(3年制)を設置
平成26年 (2014)	日本医科大学新丸子校舎を閉舎し、武蔵境校舎へ移設

3. 法人が設置する教育研究機関・付置施設

平成25年5月1日現在

(1) 日本医科大学

	学長	田尻 孝
大学院医学研究科	医学研究科長	鈴木 秀典
医学部	医学部長	弦間 昭彦
付属病院	院長	福永 慶隆
腎クリニック	所長	橋本 和政
ワクチン療法研究施設	所長	永積 惇
武蔵小杉病院	院長	黒川 顯
多摩永山病院	院長	新 博次
千葉北総病院	院長	井上 哲夫
健診医療センター	センター長	石原 圭一
呼吸ケアクリニック	所長	木田 厚瑞
成田国際空港クリニック	所長	赤沼 雅彦
図書館	館長	百束 比古
老人病研究所	所長	南 史朗

(2) 日本獣医生命科学大学

	学長	池本 卯典
大学院獣医生命科学研究科	研究科長	田中 実
獣医学部	獣医学部長	新井 敏郎
応用生命科学部	応用生命科学部長	阿久澤 良造
生命科学共同研究施設	施設長	池田 秀利
分子腫瘍学研究施設	施設長	田口 文広
付属動物医療センター	病院長	小山 秀一
付属牧場(富士アニマルファーム)	牧場長	左向 敏紀
図書館	館長	斎藤 徹

(3) 日本医科大学看護専門学校

校長	山下 富子
----	-------

(4) 付置施設

国際交流センター	センター長	島田 隆
知的財産推進センター	センター長	落 雅美

4.所在地一覧

(1) 日本医科大学

日本医科大学 医学部棟



〒113-8602 東京都文京区向丘2-20-10

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

ホームページアドレス <http://college.nms.ac.jp/>

最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

日本医科大学 大学院棟



〒113-0031 東京都文京区根津1-25-16

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

最寄駅: 根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メトロ南北線]

日本医科大学 新丸子校舎・グラウンド



〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町2-297-2

平成26年3月に新丸子校舎を閉舎し、武蔵境校舎へ移設

日本医科大学 図書館



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[都営三田線]

付属病院



〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <http://hosp.nms.ac.jp/>

最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[都営三田線]

武蔵小杉病院



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-396

☎ 044 (733) 5181

ホームページアドレス <http://kosugi-h.nms.ac.jp/>

最寄駅: 武蔵小杉[東急東横線、目黒線] [JR南武線、横須賀線]

多摩永山病院



〒206-8512 東京都多摩市永山1-7-1

☎ 042 (371) 2111

ホームページアドレス <http://tama-h.nms.ac.jp/>

最寄駅: 小田急永山[小田急多摩線] 京王永山[京王相模原線]

千葉北総病院



〒270-1694 千葉県印西市鎌苅1715

☎ 0476 (99) 1111

ホームページアドレス <http://hokuso-h.nms.ac.jp/>

最寄駅: 印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

成田国際空港クリニック



〒282-0004 千葉県成田市古込字古込1-1

☎ 0476 (34) 6119

ホームページアドレス <http://home.nms.ac.jp/narita/index.html>

最寄駅: 空港第2ビル[JR線][成田スカイアクセス線][京成本線]

健診医療センター



〒113-0022 東京都文京区千駄木1-12-15

☎ 03 (5814) 6651

ホームページアドレス <http://home.nms.ac.jp/pet/index.html>

最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

呼吸ケアクリニック



〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-15 JPR市ヶ谷ビル8階

☎ 03 (5276) 2325

ホームページアドレス <http://rcc.nms.ac.jp/>

最寄駅: 市ヶ谷[JR中央・総武線][東京メトロ有楽町線、南北線][都営新宿線]

腎クリニック



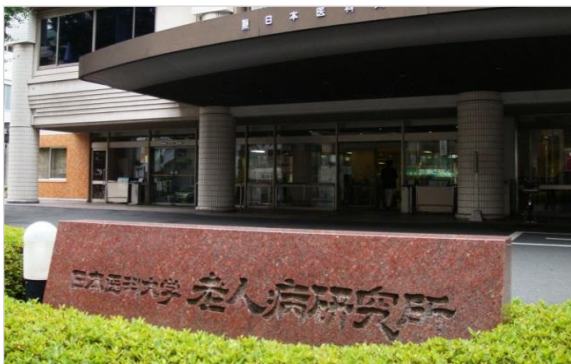
〒113-1601 東京都文京区本駒込1-7-15アサカビル

☎ 03 (3822) 2131

ホームページアドレス <http://home.nms.ac.jp/jin/index.html>

最寄駅: 本駒込[東京メトロ南北線] 白山[都営地下鉄三田線]

老人病研究所



〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-396

☎ 044 (733) 1821

ホームページアドレス <http://home.nms.ac.jp/ig/index.html>

最寄駅: 武蔵小杉、新丸子 [東急東横線、目黒線]
武蔵小杉 [JR南武線、横須賀線]

ワクチン療法研究施設



〒113-8706 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (3822) 2131 [大代表]

ホームページアドレス <http://vaccine.nms.ac.jp/>

最寄駅: 千駄木、根津 [東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込 [東京メトロ南北線] 白山 [地下鉄都営三田線]

(2) 日本獣医生命科学大学

日本獣医生命科学大学



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

☎ 0422 (31) 4151

ホームページアドレス <http://www.nvlu.ac.jp/>

最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

動物医療センター



〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

☎ 0422 (31) 4151

最寄駅: 武蔵境 [JR中央線] [西武多摩川線]

富士アニマルファーム



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺799

☎ 0555 (89) 3086

富士セミナーハウス



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺799

☎ 0555 (89) 3086

(3) 日本医科大学看護専門学校

看護専門学校



〒270-1613 千葉県印西市鎌苅1955

☎ 0476 (99) 1331

ホームページアドレス <http://nurse.nms.ac.jp/>

最寄駅: 印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅
およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

看護学生寮 ドミトリーMOMO



〒270-1613 千葉県印西市鎌苅1955

最寄駅: 印旛日本医大[北総線] (印旛日本医大駅
およびJR成田線木下駅より無料シャトルバス運行)

(4) 付置施設

知的財産推進センター



〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

☎ 03 (5814) 6637

ホームページアドレス <http://tlo.nms.ac.jp/>

最寄駅: 根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メ
トロ南北線]

国際交流センター 弥生1号館



〒113-0032 東京都文京区弥生1-4-10 (弥生1号館内)

☎ 03 (5802) 1946

ホームページアドレス <http://home.nms.ac.jp/iec/index.htm>

最寄駅: 根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メ
トロ南北線]

(5) その他施設等

日医大マリンハウス



〒248-0021 神奈川県鎌倉市坂の下31-14

☎ 0467 (23) 1563

最寄駅: 極楽寺[江ノ島電鉄線]

牧心セミナーハウス



〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺831

☎ 0555 (89) 2126

☎ 03 (3822) 2131

最寄駅: 千駄木、根津[東京メトロ千代田線] 東大前、本駒込[東京メトロ南北線] 白山[地下鉄都営三田線]

☎ 03 (3822) 2131

最寄駅: 根津[東京メトロ千代田線] 東大前[東京メトロ南北線]

① 学校法人日本医科大学 日本医科大学(千駄木校舎) 附属病院
国際交流センター 知的財産推進センター
健診医療センター ワクチン療法施設

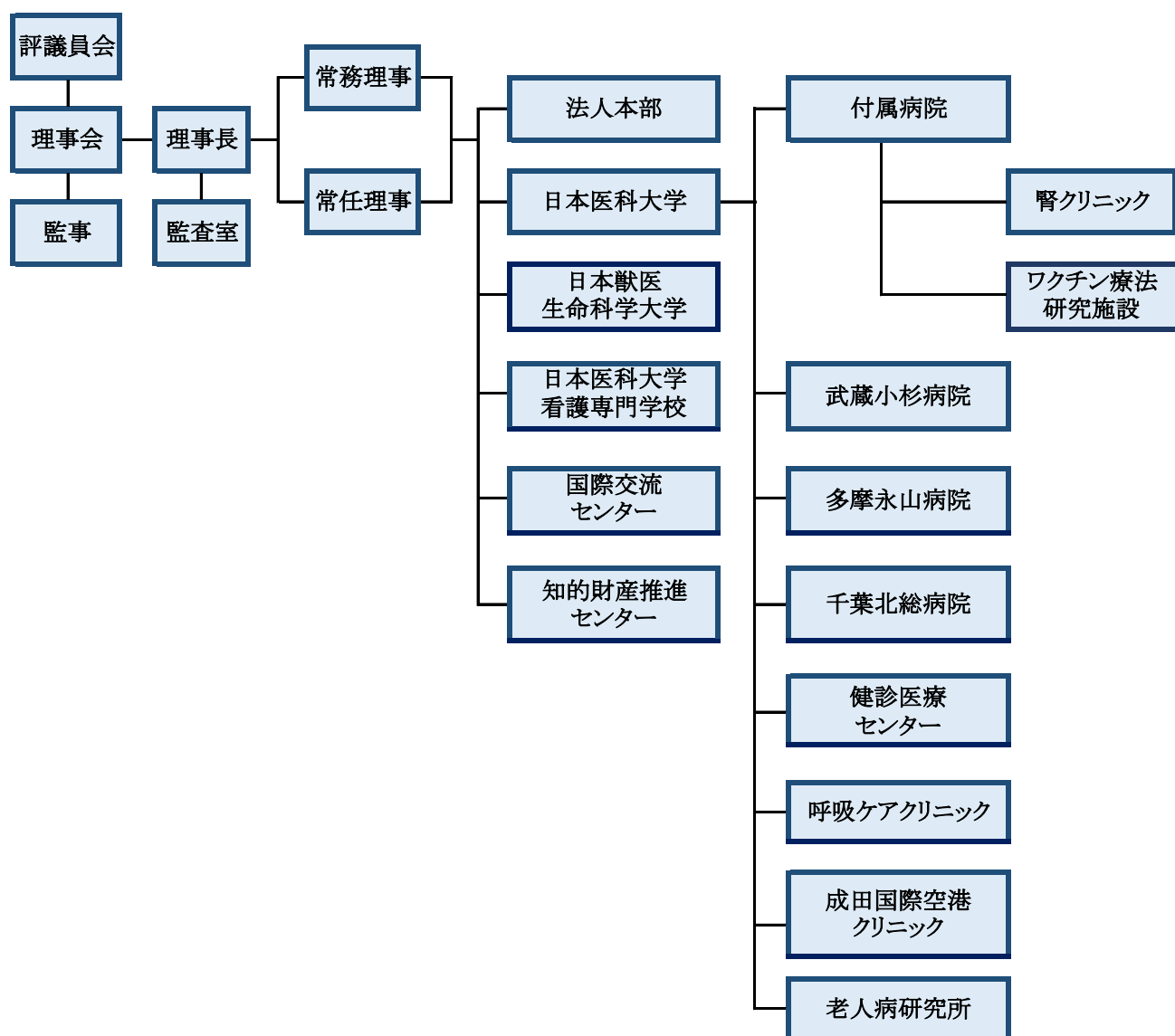
② 武蔵小杉病院 老人病研究所 新丸子校舎・グラウンド

- ① 学校法人日本医科大学 日本医科大学(千駄木校舎) 付属病院
国際交流センター 知的財産推進センター
健診医療センター ワクチン療法施設
- ② 武蔵小杉病院 老人病研究所 新丸子校舎・グラウンド
- ③ 多摩永山病院
- ④ 千葉北総病院 看護専門学校
- ⑤ 日本獣医生命科学大学 動物医療センター
- ⑥ 腎クリニック
- ⑦ 呼吸ケアクリニック
- ⑧ 成田国際空港クリニック
- ⑨ 日医大マリンハウス

5.法人の組織機構

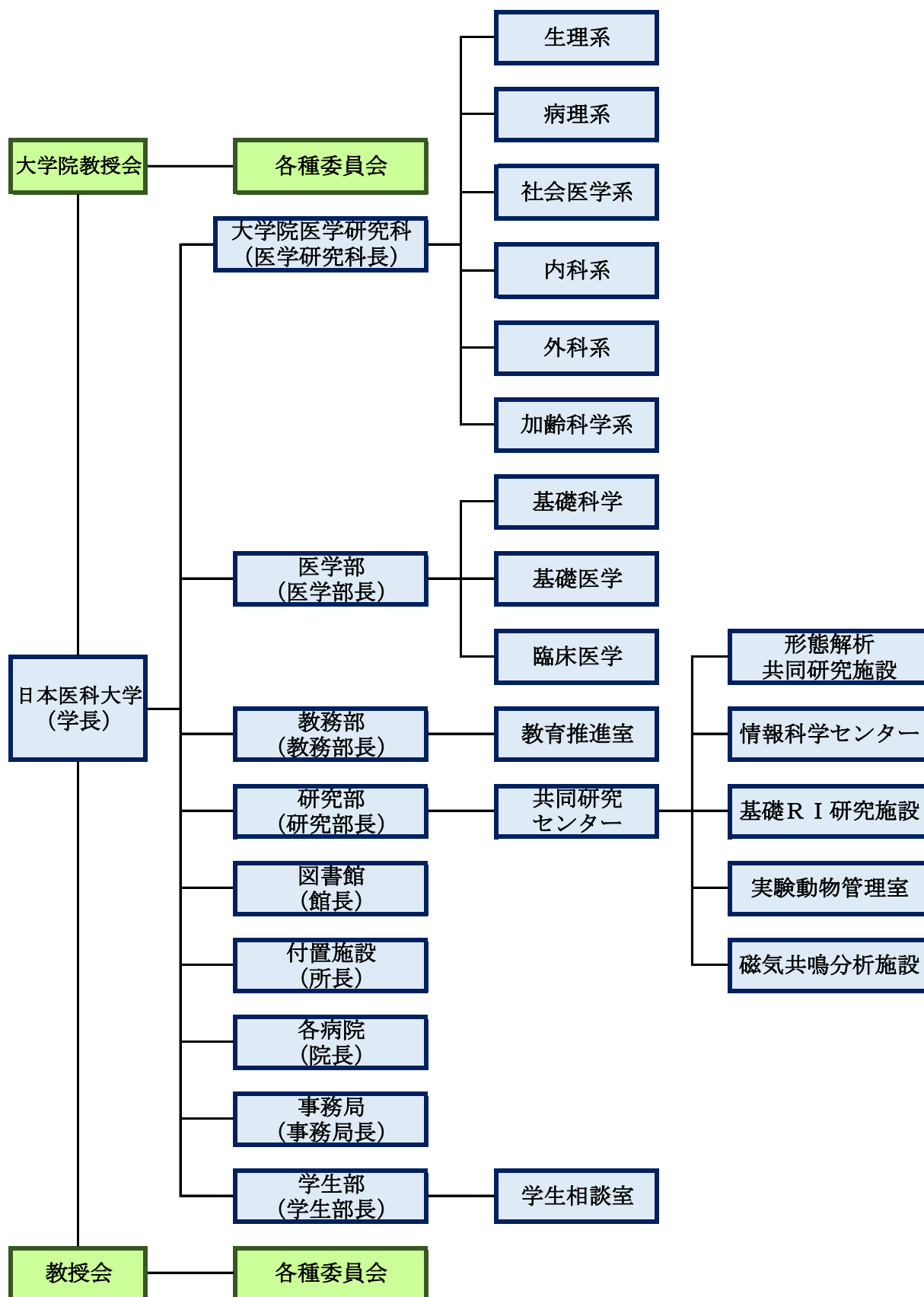
(1) 法人組織

平成25年5月1日現在



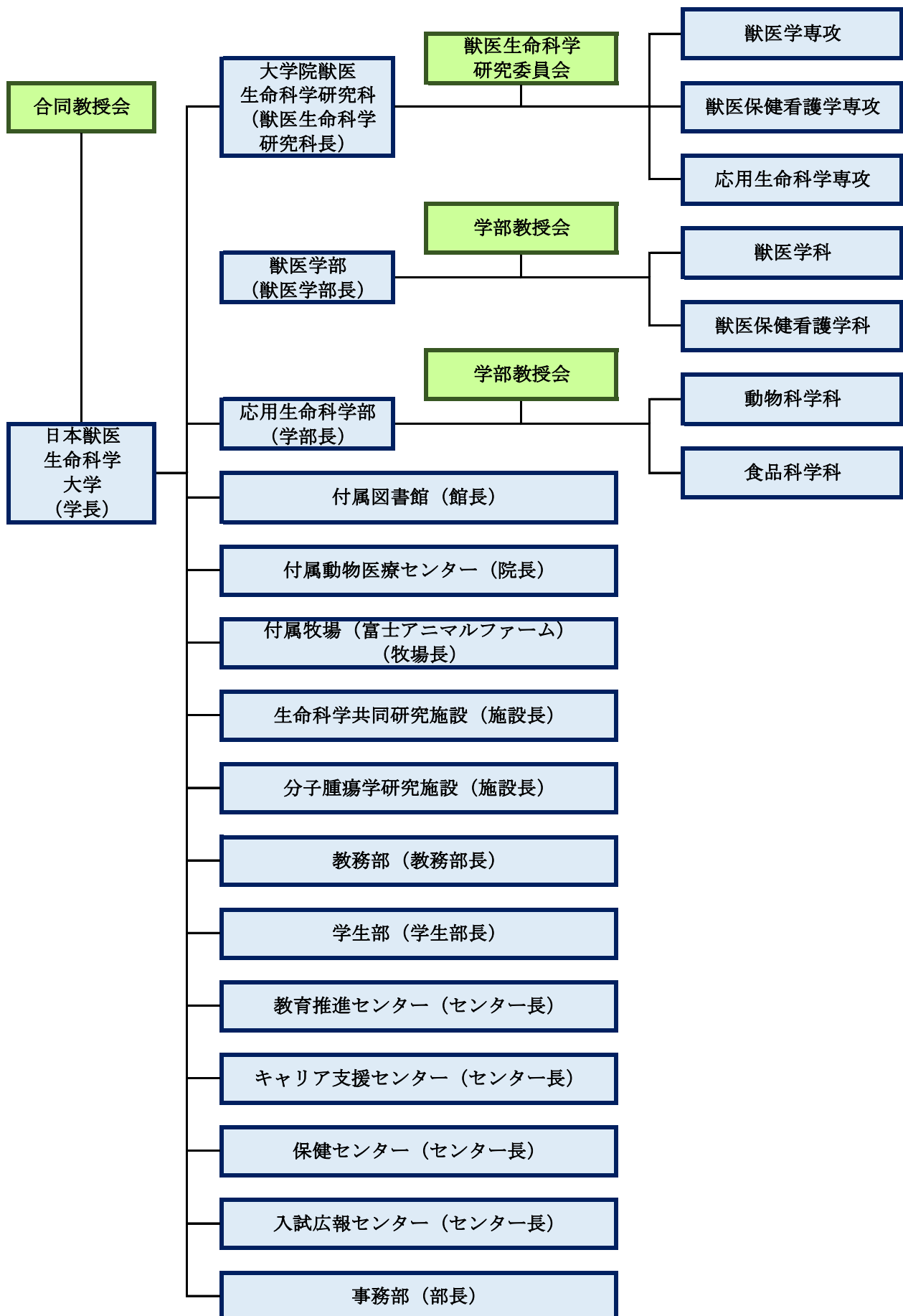
(2) 日本医科大学

平成25年5月1日現在



(3) 日本獣医生命科学大学

平成25年5月1日現在



6. 役員等一覧

(1) 理事・監事

平成25年5月1日現在

役職名	氏名	勤務状況	選任区分
理事長	赫 彰郎	常勤	評議員
常務理事	隈崎 達夫	常勤	評議員
常務理事	山下 精彦	常勤	評議員
常務理事	高野 照夫	常勤	評議員
理事	田尻 孝	常勤	日本医科大学学長
理事	池本 卯典	常勤	日本獣医生命科学大学学長
理事	鎌田 隆	非常勤	評議員
理事	佐藤 雄三	非常勤	評議員
理事	新 博次	常勤	学識経験者
理事	伊藤 雅治	非常勤	学識経験者
理事	井上 哲夫	常勤	学識経験者
理事	黒川 顯	常勤	学識経験者
理事	島田 隆	常勤	学識経験者
理事	福永 慶隆	常勤	学識経験者
監事	大喜多啓光	非常勤	
監事	柏原 一英	非常勤	
監事	柴 由美子	非常勤	

区分	定数	現員	
理事	14	14 (3)	()内は学外理事数
監事	2～3	3 (3)	()内は学外監事数

(2) 評議員 評議員会議長 馬越 正通

区分	定数	現員
1号評議員	2	2
2号評議員	10	10
3号評議員	6	6
4号評議員	10～12	12
5号評議員	8～12	9
計	36～42	39

7. 教職員数一覧

(1) 教員

平成25年5月1日現在

		教 授	准 教 授	講 師	助 教	専任教員	計
日本医科大学	日本医科大学	15	29	30	40		114
	付属病院	39	47	54	222		362
	腎クリニック	0	0	0	2		2
	ワクチン療法研究施設	0	0	1	1		2
	武蔵小杉病院	7	17	17	107		148
	多摩永山病院	7	11	16	80		114
	千葉北総病院	10	23	11	120		164
	健診医療センター	0	0	1	2		3
	呼吸ケアクリニック	1	0	1	2		4
	成田国際空港クリニック	1	0	0	4		5
	老人病研究所	3	2	2	8		15
	小 計	83	129	133	588	0	933
日本獣医生命科学大学	獣医学部	32	17	23	14	7	93
	応用生命科学部	16	11	9	4	0	40
	小 計	48	28	32	18	7	133
日本医科大学看護専門学校		—	—	—	—	17	17
合 計		131	157	165	606	24	1083

(2) 職員

平成25年5月1日現在

		事 務 職	看 護 職	技 術 職	技 能 職	計
法人本部		65	0	0	1	66
日本医科大学	日本医科大学	51	0	37	4	92
	付属病院	138	1048	270	45	1501
	腎クリニック	0	8	4	0	12
	ワクチン療法研究施設	3	0	0	0	3
	武蔵小杉病院	46	490	106	6	648
	多摩永山病院	49	455	94	4	602
	千葉北総病院	79	609	143	4	835
	健診医療センター	1	5	6	0	12
	呼吸ケアクリニック	2	4	1	0	7
	成田国際空港クリニック	4	7	2	0	13
	老人病研究所	2	0	8	0	10
	小 計	375	2626	671	63	3735
日本獣医生命科学大学	獣医学部	22	0	2	12	36
	応用生命科学部	15	1	0	3	19
	小 計	37	1	2	15	55
日本医科大学看護専門学校		7	0	0	0	7
国際交流センター		1	0	0	0	1
知的財産推進センター		3	0	0	0	3
合 計		488	2627	673	79	3867

8. 学 生 数

平成25年5月1日現在

区 分			定 員	現 員	充 足 率
日本医科大学	医学部	医学部1年	114	116	101.8%
		医学部2年	114	119	104.4%
		医学部3年	114	115	100.9%
		医学部4年	112	107	95.5%
		医学部5年	110	118	107.3%
		医学部6年	100	105	105.0%
		小 計	664	680	102.4%
	大学院	大学院1年	70	31	44.3%
		大学院2年	70	30	42.9%
		大学院3年	70	32	45.7%
		大学院4年	70	62	88.6%
		小 計	280	155	55.4%
日本獣医 生命科学大学	獣医学部	獣医学科1年	80	100	125.0%
		獣医学科2年	80	100	125.0%
		獣医学科3年	80	93	116.3%
		獣医学科4年	80	99	123.8%
		獣医学科5年	80	97	121.3%
		獣医学科6年	80	86	107.5%
		小 計	480	575	119.8%
		獣医保健看護学科1年	100	102	102.0%
		獣医保健看護学科2年	100	99	99.0%
		獣医保健看護学科3年	80	97	121.3%
		獣医保健看護学科4年	80	91	113.8%
		小 計	360	389	108.1%
		獣 医 学 部 合 計	840	964	114.8%
	応用生命科学部	動物科学科1年	100	100	100.0%
		動物科学科2年	100	101	101.0%
		動物科学科3年	80	91	113.8%
		動物科学科4年	80	86	107.5%
		小 計	360	378	105.0%
		食品科学科1年	80	94	117.5%
		食品科学科2年	80	86	107.5%
		食品科学科3年	80	79	98.8%
		食品科学科4年	80	90	112.5%
		小 計	320	349	109.1%
		応 用 生 命 科 学 部 合 計	680	727	106.9%
	日 本 獣 医 生 命 科 学 大 学 学 部 生 合 計		1520	1691	111.3%
	大学院	獣医学専攻1年	8	5	62.5%
		獣医学専攻2年	8	9	112.5%
		獣医学専攻3年	8	7	87.5%
		獣医学専攻4年	8	6	75.0%
		小 計	32	27	84.4%
		獣医保健看護学前期1年	5	5	100.0%
		獣医保健看護学前期2年	5	6	120.0%
		獣医保健看護学後期1年	2	1	50.0%
		獣医保健看護学後期2年	2	2	100.0%
		獣医保健看護学後期3年	2	3	150.0%
		小 計	16	17	106.3%
		応用生命科学前期1年	7	9	128.6%
		応用生命科学前期2年	7	12	171.4%
		応用生命科学後期1年	2	2	100.0%
		応用生命科学後期2年	2	0	0.0%
		応用生命科学後期3年	2	1	50.0%
		小 計	20	24	120.0%
		大 学 院 合 計	68	68	100.0%
日本医科大学 看護専門学校	看護学科	看護学科1年	80	85	106.3%
		看護学科2年	80	85	106.3%
		看護学科3年	80	77	96.3%
		小 計	240	247	102.9%

9. 入試状況・国家試験・学位授与

(1) 平成26年度入試状況

(単位：人)

学校名	学部・学科		志願者数	受験者数	入学者数
日本医科大学	医学部		2232	1943	114
	大学院	医学研究	40	38	31
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科	2565	2516	96
		看護学科	847	834	103
		小計	3412	3350	199
	応用生命科学部	動物科学科	842	820	101
		食品科学科	590	573	88
		小計	1432	1393	189
	日本獣医生命科学大学合計		4844	4743	388
	大学院	獣医学	2	2	2
		看護学前期	7	7	7
		看護学後期	2	2	2
		応用生命科学前期	12	12	12
		応用生命科学後期	1	1	1
		小計	24	24	24
日本医科大学看護専門学校	看護学科		296	286	84

(2) 平成26年（108回）医師国家試験〔日本医科大学〕

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	103	101	98.1	93.9
既卒	4	2	50.0	61.7
合計	107	103	96.3	90.6

(3) 平成26年（65回）獣医師国家試験〔日本獣医生命科学大学〕

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	77	67	87.0	90.2
既卒	11	4	36.4	40.4
合計	88	71	80.7	81.7

(4) 平成26年（103回）看護師国家試験〔日本医科大学看護専門学校〕

	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
現役	74	67	90.5	95.2
既卒	9	2	22.2	42.7
合計	83	69	83.1	89.8

(5) 学位授与

学校名	学部・学科		学位授与数	卒業・修業者数	卒業・修業率
			(人)	(人)	(%)
日本医科大学	医学部		103	103	100.0
日本獣医生命科学大学	獣医学部	獣医学科	84	84	100.0
		獣医保健看護学科	92	92	100.0
		小計	176	176	100.0
	応用生命科学部	動物科学科	85	85	100.0
		食品科学科	88	88	100.0
		小計	173	173	100.0
	日本獣医生命科学大学合計		349	349	100.0
日本医科大学看護専門学校	看護学科		0	74	96.1

10. 研修医採用・専修医採用・他施設との交流等

(1) 日本医科大学臨床研修医採用者数一覧

マ: マッチング

年度	病院名	募集人員	総数	マ	本学新卒	マ	本学既卒	マ	他学出身者	マ
H26	付属病院 (A)	44	40	33	24	25	1	1	15	7
	付属病院 (B)	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	付属病院 (C)	2	1	1	0	0	0	0	1	1
	計	48	41	34	24	25	1	1	16	8
	武蔵小杉病院	11	4	8	3	4	0	1	1	3
	多摩永山病院	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	千葉北総病院	8	8	8	4	4	0	0	4	4
	合計	70	53	50	31	33	1	2	21	15
H25	付属病院 (A)	44	28	27	15	18	0	0	13	9
	付属病院 (B)	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	付属病院 (C)	2	1	1	1	1	0	0	0	0
	計	48	29	28	16	19	0	0	13	9
	武蔵小杉病院	11	10	10	8	8	1	2	1	0
	多摩永山病院	3	3	3	2	2	0	0	1	1
	千葉北総病院	14	7	8	4	4	1	1	2	3
	合計	76	49	49	30	33	2	3	17	13
H24	付属病院 (A)	40	27	30	17	21	0	1	10	8
	付属病院 (B)	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	付属病院 (C)	2	1	1	1	1	0	0	0	0
	計	44	28	31	18	22	0	1	10	8
	武蔵小杉病院	11	9	11	5	6	2	2	2	3
	多摩永山病院	3	2	3	1	2	0	0	1	1
	千葉北総病院	11	5	8	2	3	0	0	3	5
	合計	69	44	53	26	33	2	3	16	17
H23	付属病院 (A)	40	39	40	28	29	0	0	11	11
	付属病院 (B)	2	2	2	1	1	1	1	0	0
	付属病院 (C)	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	44	41	42	29	30	1	1	11	11
	武蔵小杉病院	11	10	11	7	6	1	3	2	2
	多摩永山病院	3	3	3	2	2	0	0	1	1
	千葉北総病院	10	6	6	3	3	0	0	3	3
	合計	68	60	62	41	41	2	4	17	17
H22	付属病院 (A)	36	34	36	29	31	0	0	5	5
	付属病院 (B)	2	1	2	1	2	0	0	0	0
	付属病院 (C)	2	1	1	1	1	0	0	0	0
	計	40	36	39	31	34	0	0	5	5
	武蔵小杉病院	11	9	11	9	10	0	0	0	1
	多摩永山病院	3	2	3	1	2	1	1	0	0
	千葉北総病院	10	10	8	5	4	1	1	4	3
	合計	64	57	61	46	50	2	2	9	9

※マッチング

医師臨床研修マッチングとは、臨床研修を受けようとする者（医学生等）と臨床研修を行う病院（臨床研修病院・大学病院）の研修プログラムを、お互いの希望を踏まえて、一定の規則（アルゴリズム）に従って、コンピュータにより組み合わせを決定するシステム。

(2) NPO法人卒後臨床研修評価機構受審結果

No.	訪問調査日	評価結果	認定証有効期間
1	H21. 11. 4	認定2年	H22. 1. 1 ～ H23. 12. 31
2	H23. 11. 4	認定2年	H24. 1. 1 ～ H25. 12. 31
3	H25. 11. 8	認定4年	H26. 1. 1 ～ H29. 12. 31

(3) 日本医科大学専修医採用者数一覧

年度	病院名	採用人数	日本医科大学卒		他大学卒	
			初期研修病院 (日医大)	初期研修病院 (他施設)	初期研修病院 (日医大)	初期研修病院 (他施設)
H26	付属病院	69	19	18	6	26
	武蔵小杉病院	7	5	2	0	0
	多摩永山病院	1	0	0	0	1
	千葉北総病院	4	1	0	2	1
	合計	81	25	20	8	28
H25	付属病院	81	21	20	12	28
	武蔵小杉病院	13	7	1	1	4
	多摩永山病院	3	1	0	1	1
	千葉北総病院	3	1	0	1	1
	合計	100	30	21	15	34
H24	付属病院	66	28	17	6	15
	武蔵小杉病院	9	5	1	0	3
	多摩永山病院	2	1	1	0	0
	千葉北総病院	3	1	0	1	1
	合計	80	35	19	7	19
H23	付属病院	73	28	14	5	26
	武蔵小杉病院	3	1	0	2	0
	多摩永山病院	1	0	1	0	0
	千葉北総病院	7	3	0	1	3
	合計	84	32	15	8	29
H22	付属病院	48	22	9	4	13
	武蔵小杉病院	13	8	0	0	5
	多摩永山病院	0	0	0	0	0
	千葉北総病院	2	1	0	0	1
	合計	63	31	9	4	19

4. 他病院の研修生等の受入実績

年度	病院名	人数	研修内容
H25	東和病院	1	初期臨床研修
	東大和病院	2	初期臨床研修
	博慈会記念病院	2	初期臨床研修
	徳島大学病院	1	初期臨床研修
	松坂市民病院	2	初期臨床研修
	合計	8	
H24	東和病院	5	初期臨床研修
	東大和病院	1	初期臨床研修
	東戸塚記念病院	1	初期臨床研修
	徳島大学病院	1	初期臨床研修
	徳島大学病院	3	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	三好病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	合計	12	
H23	東和病院	5	初期臨床研修
	博慈会記念総合病院	2	初期臨床研修
	医師臨床研修マッチングとは、	2	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	高知大学病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	大分中村病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	鳴門病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	合計	12	
H22	東和病院	3	初期臨床研修
	徳島大学病院	4	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	大分中村病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	合計	8	
H21	東和病院	3	初期臨床研修
	徳島大学病院	2	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	中林病院	1	四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成事業
	合計	6	
総計		46	

1 1. 管 理 運 営 等

(1) 理事会、評議員会の開催状況

1) 理事会開催状況

() 内は書面による出席

開催年月日		出席状況			議事内容等
		理事	監事	合計	
平成25年	4月23日	14	3	17	日本医科大学大学院医学研究科腎臓内科学分野大学院教授の任命に関する件等
	5月28日	14	3	17	平成24年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	6月25日	14	3	17	平成25年度上半期期末勤務手当支給に関する件等
	7月23日	14	3	17	次期日本医科大学長の任命に関する件等
	9月24日	14	3	17	学校法人日本医科大学資金運用規則の制定に関する件等
	9月30日 (臨時理事会)	14(1)	3	17	学校法人日本医科大学アクションプラン 21 新病院建設工事にかかる事業内容変更に関する件
	10月22日	14(1)	3	17	学校法人日本医科大学知的財産推進センター長の選任に関する件等
	11月26日	14	3	17	学校法人日本医科大学寄附行為の一部改正に関する件等
	12月24日	14(1)	3	17	日本医科大学健診医療センター倫理委員会規程の制定に関する件等
平成26年	1月28日	14	3	17	学校法人日本医科大学利益相反マネジメント規程の一部改正に関する件等
	2月25日	14	3	17	日本医科大学大学院医学研究科分子遺伝医学分野大学院教授の任命に関する件等
	3月25日	14(1)	3	17	平成26年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

2) 評議員会開催状況

() 内は書面による出席

開催年月日		出席状況				議事内容等
		評議員	理事	監事	合計	
平成25年	5月28日	37(6)	1	3	41	平成24年度学校法人日本医科大学決算(事業報告を含む)に関する件等
	11月26日	37(2)	1	3	41	学校法人日本医科大学平成25年度上半期収支状況報告等
平成26年	3月25日	37(5)	1	3	41	平成26年度学校法人日本医科大学予算(案)及び事業計画(案)に関する件等

(2) AP(アクションプラン)21の進捗状況

新病棟建設工事は、平成 25 年度末時点でほぼ完成を迎え、建物使用開始前の各種行政検査実施段階まで進捗した。

- ・建物名称 日本医科大学付属病院 本館
- ・設置場所 文京区千駄木 1 丁目 1 番 5 号
日本医科大学付属病院敷地
- ・工 期 (第 1 期)
平成 22 年 2 月 5 日～平成 26 年 4 月 30 日
(※ 第 3 期完了予定 平成 31 年 6 月 30 日)
- ・建物概要 建築面積 4,588.88 m²
延床面積 34,516.83 m²(最終予定面積 59,867.73 m²)
構造・階数 鉄筋コンクリート造(免震構造)
地下 3 階地上 12 階建 (※運用階表記)



(3) 武蔵小杉再開発事業

本法人武蔵小杉キャンパス再開発計画に関する川崎市との協議を進める中、市から小杉駅北側地区における再開発の進め方について、「小杉駅北側地区の開発については、計画が固まる前の段階で、地域住民に対し周知・説明を行い、住民意見を反映した計画案を策定する。」旨の方針が出された。

これに伴い、都市計画等の行政手続き開始前に事業者による任意の説明会を開催することとなり、平成 26 年 2 月 12 日・15 日の両日、約 350 名の参加者に対し、意見の聴取およびアンケート調査を実施した。

その結果、小学校・新病院の建設への賛同や超高齢化社会に対応した医療・福祉機能や子育て支援機能等の導入を望む意見がある一方、都市型住宅の開発に対する反対の意見もあった。

川崎市市内においても、本法人の開発計画に関心が高く、都市計画マスタープランに位置付けた「医療と文教の核」の形成を図るために、医療・福祉・教育等の諸機能の導入や、それらを支える都市基盤整備の促進、災害に強い市街地の形成が検討されている。

今後、これらの意見・要望を踏まえ、近隣住民や行政への対応等について慎重に検討・協議を進め、本計画の素案確定（行政手続きの開始）を目指す。

(4) その他建設関連事業

1) 日本医科大学・日本獣医生命科学大学共同利用校舎

日本医科大学・日本獣医生命科学大学の共同利用新校舎（日本獣医科学生命大学E棟）の建設工事が完了し、平成26年度より校舎として利用する予定である。

【概要】

- ・建物名称 日本獣医生命科学大学E棟
- ・設置位置 日本獣医生命科学大学第一校舎
- ・工期 平成24年7月14日～平成26年3月14日
- ・建物概要 建築面積 2,262.00 m²
延床面積 16,787.47 m²
構造・階数 鉄筋コンクリート造地下1階地上7階（免震構造）
主要施設 日本医科大学 利用階 2階、3階部分
日本獣医生命科学大学 利用階 1階、4～7階
両大学共同利用体育施設 地下1階



2) 千葉県補助事業

平成25年度千葉県地域医療再生基金「救命救急センター等整備事業」により建設が進められていたドクターヘリの格納庫が完成した。格納庫の完成により、風雨等による機体への負担が格段に軽減されたことはもとより、悪天候時でも基地病院に駐留が可能となり、ドクターヘリの安全性と機動性が一層強化された。



【概要】

- ・建物名称 日本医科大学千葉北総病院 ヘリコプター格納庫
- ・設置位置 印西市鎌苅1715番 千葉北総病院敷地内
- ・取得日 平成26年3月31日
- ・建物概要 建築面積 416.50 m²
延床面積 498.15 m²
構造等 鉄骨造2階建て

3) 保育施設の整備

職員の福利厚生、出産・育児休業者の離職防止・復職支援対策及び待機児童解消対策とする行政からの要請に基づき、日本医科大学千駄木地区の「たちばな保育所」や多摩永山病院内の「院内保育園 どんぐり」の整備を行い、平成 26 年 4 月 1 日より開所を予定している。また、施設整備を行っていた武蔵小杉地区の「すくすく保育園」を平成 25 年 4 月 1 日に開所した。千葉北総病院内の「院内保育所 たけのこ」は既に平成 20 年度から開所しており、各病院に保育施設が整備されたことになる。

① 千駄木地区

【概要】

- ・設置場所 文京区弥生 1 丁目
- ・施設名称 たちばな保育所
- ・定 員 15 名
- ・施設面積 98.5 m²



たちばな保育所

② 多摩永山病院

【概要】

- ・設置場所 多摩永山病院 管理室棟
- ・施設名称 院内保育園 どんぐり
- ・定 員 20 名
- ・利用面積 93.74 m²



院内保育園 どんぐり

③ 武蔵小杉病院

【概要】

- ・設置場所 川崎市中原区新丸子町
- ・施設名称 すくすく保育園
- ・定 員 20 名
- ・利用面積 75.26 m²



すくすく保育園

(5) 記念行事

1) 千葉北総病院開院 20 周年記念祝賀会

千葉北総病院は、平成 26 年 1 月 26 日をもって開院 20 周年を迎え、平成 26 年 2 月 23 日（日）にホテルニューオータニ幕張にて『日本医科大学千葉北総病院開院 20 周年記念祝賀会』を執り行った。理事長以下、法人関係者、大学関係者、同窓会、千葉県医師会、警察、消防等総勢 524 名の方々にご臨席いただき、厳粛かつ盛大な祝賀会となった。



井上院長による挨拶



鏡開き

2) 新丸子校舎祓い式・記念懇親会

日本医科大学新丸子校舎は平成 26 年 3 月 31 日をもって閉舎し、武蔵境校舎に移転をした。閉舎にあたり、平成 26 年 3 月 11 日（火）に『日本医科大学新丸子校舎閉舎祓い式及び記念懇親会』を開催した。多くの関係者が出席し、閉舎祓い式は氏神様である丸子山王日枝神社の神官により、厳粛に執り行われた。懇親会は、祓い式出席者と共に教職員・同窓会などから約 170 名が出席し、盛況のなか開催された。



閉舎祓い式



田尻学長による挨拶

3) 日本獣医生命科学大学E棟竣工式・竣工祝賀会

平成 26 年 3 月 16 日（日）、日本医科大学との合同教育施設である日本獣医生命科学大学E棟の竣工式並びに竣工祝賀会を執り行った。関係者 75 名が出席し、E棟 1 階講義室特設会場において、杵築大社宮司による神事が行われ、2 大学の益々の発展を祈った。その後、会場を A 棟 2 階アリーナに移し、来賓、法人、大学、同窓会等学内外約 140 名が出席した竣工祝賀会が盛会裏に終わった。



竣工式



赫理事長による挨拶

(6) 人材採用活動・教育研修及び労務管理

1) 看護職員採用確保対策

社会的環境として看護師採用が厳しい中、平成 25 年度に看護職員採用活動を展開した結果、4 病院の採用目標数 330 名のところ、306 名を採用決定した。平成 26 年 4 月の各病院配属数は、看護師国家試験不合格者 8 名を除き、付属病院 129 名、武蔵小杉病院 62 名、多摩永山病院 42 名、千葉北総病院 65 名となり、前年度の採用実績 256 名に対し、50 名増の結果となった。

2) 障害者雇用対策

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく事業者の障害者雇用義務として、雇用率 2%（身体障害者、知的障害者及び精神障害者）を課されている。法定雇用率達成を目標に採用活動を展開し、7 名を新規採用した結果、雇用者総数 54 名、雇用率は 1.78%（前年度 1.71%）に上昇した。

3) 職員の能力開発と人材育成研修

人事部看護課は、日本医科大学 4 病院看護職員の看護実践能力開発研修、看護管理能力育成、実習指導者養成等に係る研修・教育活動を実施した。

- ① 看護実践能力開発研修（対象：経験 3 年目以上の看護師）
- ② 臨床における看護研究（対象：看護研究実施者）
- ③ 臨地実習指導者認定講習会（対象：看護業務 3 年以上の看護師で臨床指導者候補者）

④ 看護管理研修（対象：主任・係長・師長職）

4) 職員の「ココロの健康診断」の実施

メンタルヘルス不調の予防、不調者の早期発見、早期対応につながるように、全職員を対象に、自己の精神健康状態を把握するためのストレスチェック（ココロの健康診断）を10月に実施（任意受診）した。同時に、「メンタル相談窓口」を外部機関に開設し面談カウンセリングが利用できるようにした。

（7）諸規程の整備について

本法人の管理運営が常に適正かつ円滑に遂行されるよう、寄附行為及び学則等の整備を行っている。平成25年度は17件の規程、22件の規則、46件の細則、2件の内規について、制定または改廃の手続きを行った。

（8）組織規程等の改定について

1) 学校法人日本医科大学特定関連病院の認定基準変更等に伴う学校法人日本医科大学特定関連病院規定の一部改正

（平成25年10月1日から施行）

2) 日本医科大学新日本丸子校舎移転に伴う関係部署、施設等の名称により日本医科大学組織規則、学校法人日本医科大学組織規則、学校法人日本医科大学事務業務分掌規則、細則の一部改正

（平成26年4月1日から施行）

3) 学校法人日本医科大学 ICT 推進センター設置に伴う関連規程等の改廃と制定

〔制定された規程等〕

学校法人日本医科大学 ICT 推進センター組織規則

ICT 推進委員会細則

〔改正された規程等と改正条文箇所〕

学校法人日本医科大学組織規程

学校法人日本医科大学事務組織規則

学校法人日本医科大学事務業務分掌規則

日本医科大学組織規則

学校法人日本医科公印管理規則

学校法人日本医科大学個人情報保護に関する規程

〔廃止された規則等〕

情報システム企画委員会規則

情報科学委員会運営細則

日本医科大学情報科学センター運営細則

〔施行年月日〕

平成26年4月1日から適用

4) 医学教育センター設置に伴う関連規則の一部改正

〔改正された規則と改正条文箇所〕

日本医科大学組織規則

日本医科大学教授会規則

日本医科大学大学院教授会規則

5) 法人本部事務組織改正に伴う関連規程等の一部改正

法人の事務関係の効率化を図るため、法人本部に「法人本部長」を置く。既存の事務総長については廃止することとし、これに関連する規則を一部改正した。

〔改正された規則と改正条文箇所〕

学校法人日本医科大学組織規則

学校法人日本医科大学公印管理規則

法人日本医科大学決裁規程

〔施行年月日〕

平成 26 年 4 月 1 日

6) 日本医科大学付属四病院組織規則の一部改正

1	付属病院	診療科の統廃合、新設に伴う改正	平成 25 年 6 月理事会にて承認	平成25年7月1日から施行
2	付属四病院	電子カルテ導入等による付属四病院医療情報室の掌理業務内容変更に伴う改正	平成 25 年 6 月理事会にて承認	平成25年7月1日から施行
3	多摩永山病院	「脳神経内科」設置に伴う改正	平成 26 年 3 月理事会にて承認	平成26年3月1日から施行
4	付属病院	「臨床検査部」に設置に伴う改正	平成 26 年 3 月理事会にて承認	平成26年4月1日から施行
5	多摩永山病院	「感染制御部」設置に伴う改正	平成 26 年 3 月理事会にて承認	平成26年4月1日から施行
6	千葉北総病院	「外科」を「外科・消化器外科」「乳腺科」に改組分離することに伴う改正	平成 26 年 3 月理事会にて承認	平成26年4月1日から施行
7	付属病院	新病棟前期開院に向けた診療科等の整備に伴う改正	平成 26 年 3 月理事会にて承認	平成26年8月1日から施行

（９）知的財産権に関する業務

学校法人日本医科大学として、平成 25 年度に 5 件の国内特許願を行った。この内、日本医科大学からの発明が 3 件、日本獣医生命科学大学からの発明が 2 件であり、全て外部機関との共同出願であった。外国出願は外部機関との共同出願を 1 件行った。平成 25 年度に権利化した国内特許権は 11 件、外国特許権は 2 件であり、本法人が保有する特許権は累計で日本国 33 件、外国 8 件となった。

この他、外部への特許権等の実施許諾等を行い、約 760 万円の実施料収入を得た。

平成 24 年度に啓発活動の一貫として作成した冊子「特許の豆知識」を日本医科大学の講師以上の教員と各所属、日本獣医生命科学大学の全教員に配布し、知的財産に関する基礎的な知識や、学内での取り扱い等について説明した。

発明に関する教職員からの意見をもとに学校法人日本医科大知的財産取扱規程を改正し、平成 14 年 7 月 1 日の施行時から理事長名の通知により、柔軟に運用していた当該規定を、平成 26 年 4 月 1 日をもって、正式に運用することとした。



（１０）利益相反マネジメントに関する業務

学校法人日本医科大学として、日本医科大学及び日本獣医生命科学大学において、公正で透明性の高い研究が遂行できるよう、利益相反マネジメントを行っている。

具体的には、定期自己申告、公的研究費の利益相反マネジメント、共同研究・受託研究の利益相反マネジメント、臨床研究の利益相反マネジメントを行った。

定期自己申告は、申告書の様式を改訂し、対象者の範囲を本法人の常勤役員及びすべての教員に広げて行った。定期自己申告の利益相反マネジメントにより、学会発表における利益相反状況の開示方法が不適切であった教員に対して是正勧告を行ったが、研究に影響を与えるような利益相反問題はなかった。

（１１）内部監査の状況

内部監査は、法人の運営諸活動の遂行状況について、合法性と合理性の観点から、公正かつ客観的な立場で検討・評価し、これに基づいて意見を述べ、助言、提言等を行うことにより、業務の適正化及び効率化並びにその改善を図り、法人の発展に寄与することを目的としている。平成 25 年度における内部監査の実施状況は、次のとおりであった。

１）公的研究費の監査

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学において、平成 24 年度に交付決定のあった文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金、科学研究助成基金助成

金) 及び厚生労働省厚生労働科学研究費補助金に係る研究課題 52 件、同年度に文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構等から委託を受けた教育研究活性化設備事業、戦略的創造研究推進事業等に係る研究課題 5 件、計 57 件を対象として、主としてそれらの公的研究費が適正に使用されているか、管理体制上改善すべき点はないかに着目して、証拠書類等関係書類の照合・確認等による書面監査及び関係者へのヒアリング、設備備品の現物確認等による実施監査を行った。

2) 奨学金の監査

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の奨学金について、その貸与は関係規程に則って適正に行われているか、債権管理体制が整備され、計画通りに返済されているかなどに着目して、書面監査及び実施監査を行った。

Ⅱ 事業の概要

1. 教育活動

(1) 日本医科大学

- 1) 臨床研修指導医教育ワークショップの見直し
臨床研修指導医の不足を解消するため、12月の開催とは別に、9月に付属病院主催のワークショップを開催した。
- 2) 大学院の実質化
主に昼夜開講制大学院生を対象とした講義として、本学医学会の特別講演を3回、外部講師の特別講義を4回、大学院委員会委員での学内講義を4回に亘り実施した。
- 3) 医学部カリキュラムの検討
平成26年4月の入学生から、国際認証に値するカリキュラムを実施できるよう教務部委員会で検討した。カリキュラム改定に伴い、1年次のシラバスの作成、時間割の点検等を行った。また、カリキュラム委員会を新設し、同委員会で今後の具体的なカリキュラムについて審議を継続している。
- 4) 医師国家試験対策
留年者及び在学者の医師国家試験合格率の向上を目的とした、更なる指導体制の確立を図った結果、第108回医師国家試験では、合格率の向上が見られた。成績不良者については、チューター（教授）がつき、学生の相談相手になり、全学をあげて医師国家試験対策を充実させた。
- 5) 情報関連の整備推進
学内PCに対するネットワーク接続管理機（ネットアテスト）の保守期限満了に伴う代替更新を実施した結果、違法不適切な学内LAN利用及び情報漏洩の防止を強化した。また、学内LANから危険度の高い不適切サイトへの通信制御システムであるWEBフィルタリングの保守期限満了に伴う新規購入により、学内LANのセキュリティの向上を図った。

（２）日本獣医生命科学大学

- 1) 学部学科及び大学院専攻科の入学定員の変更に係る検討
食品学科については、定員増に対応した受け入れ体制等の検討を継続することとし、獣医学科は地域獣医療支援を目的として、農林水産省、文部科学省、日本獣医師会等との継続協議をより一層積極的に推進していくこととした。
また、大学院専攻科の入学定員変更については、応用生命科学専攻博士前期課程の入学定員を 7 名から 10 名に増員する準備を整えたが、文部科学省大学設置基準の改正等への対応が必要であり、26 年度の実施については見送ることとした。
- 2) 動物看護師有資格者（任意資格）の生涯教育及び公的試験を配慮した専攻科（夜間）の設置の準備
専攻科（夜間）の設置委員会を組織した。設置には獣医科教員の協力も必要のため、獣医学科教員も設置委員会に加わる学部全体の委員会を組織（委員長は獣医保健看護学科長）とし、設置の為の詳細な条件等について継続して、検討していくこととした。
- 3) 大学院連携協定に基づく講義の交換（単位互換）
国際交流委員会の主催の国際セミナー（米国コーネル大学食品科学部の Robert B.Gravani 教授「食品安全性に関する国際シンポジウム」）を開催した。
- 4) 研究者の研究情報（ReaD データ）の一元管理
本学に所属する研究者の研究情報（Read 1）と同様に、知的財産推進センターと連携し、平成 26 年 3 月より稼働を始めた機関リポジトリを充実・発展させ、平成 27 年度を目途に Read 2 対応の日本語・英語による情報発信を試みる予定である。
- 5) 富士アニマルファームの有効利用
平成 25 年度入学生から獣医学科学生は参加型臨床実習が義務づけられたため、アニマルファームで産業動物の参加型実習ができるように準備した。また、獣医学科以外の実習も効率的に行えるように全学的な「産業動物教育研究機構」を設置した。

（３）日本医科大学看護専門学校

- 1) 平成 25 年度 1 年生（21 期生）85 名、2 年生（20 期生）85 名、3 年生（19 期生）77 名で新学期を迎えた。
- 2) 平成 25 年 4 月 9 日（火）から 11 日（木）にかけて、学校生活が円滑に

送れるよう、ガイダンスを行った。その一環として、全学生・全職員による消防訓練を実施した。

- 3) 平成 25 年 7 月 26 日（金）、8 月 2 日（金）、5 日（月）及び平成 26 年 2 月 5 日（水）は、新任教員を対象に「新任専任教員研修会」が千葉市美浜区（千葉県看護会館）にて開催された。
- 4) 平成 25 年 10 月 21 日（月）から 11 月 15 日（金）にかけて、千葉県看護教員講習会の看護教育実習生 2 名を受け入れた。
- 5) 平成 25 年 11 月 15 日（金）には千葉県教育会館において看護研究発表会が開催され、3 年生が発表した。
- 6) 平成 26 年 3 月 6 日（木）に卒業式が行われ、74 名が卒業し、千葉県知事表彰及び日本医科大学看護専門学校校長賞・秋桜賞・皆勤賞が贈られた。
- 7) 平成 26 年度入学試験は、推薦入試を平成 25 年 10 月 26 日（土）、社会人入試を平成 25 年 11 月 2 日（土）、一般入試を平成 26 年 1 月 11 日（土）に実施した。志願者数は、推薦 90 名、社会人 34 名、一般 172 名であり、入学者は 84 名であった。
- 8) 第 103 回看護師国家試験は、平成 26 年 2 月 16 日（日）に実施され、19 期生 74 名が受験し、67 名（90.5%）が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は 95.1%であった。

2.研究活動

(1) 日本医科大学

- 1) 新規補助事業への取り組み
申請した2件の平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のうち、「包括的がん治療開発拠点の形成」が選定を受け、これに伴い大学院分野の新分野の創設を含め、臨床系研究スペースの整備を図った。
- 2) 研究の継続及び活性化
私立大学等経常費補助金特別補助関連支出、学術研究振興資金、学内研究支出、研究助成費支出及び特殊研究用機器備品費支出について、ほぼ前年度並みの予算において、研究活動の活性化を図った。
- 3) 補助金及び研究支援に関する業務一元化
業務一元化に基づき、私立大学等改革支援総合事業のタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」の申請にあたり、大学院医学研究科長、医学部長、教務部長及び研究部長の横断的な取り纏めを研究推進部に集約し、対象校の選定を受けた。
- 4) 競争的研究資金の獲得強化
前年度に引き続き、研究部委員会主導の下、科学研究費補助金の申請説明会を開催するとともに、科研費審査委員の経験を有する教員によるアカデミックアドバイス、A判定の研究者に対する研究奨励費の支援を継続実施し、獲得に向け効果が着実に表れた。
- 5) 公的研究費に関する啓発
監督官庁からの各種研究情報について、医学部教授会及び研究部委員会等へ迅速に提供するとともに、学内ホームページや学内メールを活用し、研究者への情報提供と共有化を実施した。
- 6) 学術研究に関する諸規定の整備
研究機関における公的研究費の管理、監督のガイドライン（実施基準）の改定を踏まえ、事前に当該説明会や情報収集に努め、平成26年度からの実施に向けた準備を図った。
- 7) 知的財産推進センターとの連携
共同研究・受託研究の契約及びCOI（利益相反）に関して、常時連携を図って業務遂行に努めた。

(2) 日本獣医生命科学大学

1) 戦略的研究基盤形成支援事業

平成 25 年度の戦略的研究基盤形成支援事業は不採択であったが、新たな研究グループを組織し、26 年度に予定している申請に向けた計画を立案した。その準備として、東京大学医学部と動物の抗肥満薬の開発、民間企業とサプリメント開発の共同研究を実施した。

2) 人獣共通疾患の診断法及びリスク管理の効率的な技術開発

理化学研究所と共同で高病原性鳥インフルエンザウイルスの迅速定量法を開発し、農林水産省の新規事業に申請した結果、不採択であったが、次期申請の際の候補としてノミネートされた。鳥インフルエンザ以外のウイルスの迅速診断法の開発に関しては検討中である。

3) 野生動物保護、被害対策等に関する教育研究体制の充実

加害獣の生態メカニズム等を解明し、効率的な被害対策技術の開発に繋げ、今後の被害軽減に資することを目的として、群馬県と平成 25 年度特定鳥獣被害対策調査・分析等業務委託契約を締結した。調査研究課題は①新たなニホンザルの群れの管理技術の開発②里グマの出没メカニズムの解明③大型野生動物の農地侵入行動の解明④カモシカ等による被害発生メカニズムの解明⑤外来動物（アライグマ）の生態的特性に応じた効率的捕獲技術の開発の 5 項目であったが、⑥鳥獣情報 GIS 利活用技術の開発が追加となった。

(3) 日本医科大学老人病研究所

1) 現在、老人病研究所は 6 部門あり、教育は分子細胞構造学分野、細胞生物学分野、遺伝子制御学分野、生体機能制御学分野、分子生物学分野として大学院生、研究生、ポスト・ドクターの指導・育成をしてきた。研究では癌と代謝を 2 本柱とし、癌を克服するためのブレークスルーを見出すべく、基礎研究を行った。

また、糖尿病をはじめとする代謝異常も社会的大きな問題となっており、ヒトの細胞・体の精巧な仕組みを理解できるよう研究を行った。さらにこれらの研究成果を臨床応用できるように推進したい。

2) 委託研究として、文科省 21 世紀リーディングプロジェクト「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」を主導し、第 3 期 2 年目を終了した。

3.医療活動

1. 附属四病院、クリニックの医療活動実績

(1) 日本医科大学附属病院

新病院前期完成を目前に、建設工事及びそれに付随する改修工事等、多くの制約がある中、新病院の開院に向け人的整備や収益構造の改善等財務的にも盤石の体制を整える年であった。AP（アクションプラン）21 の最終段階にある現在、成功を成し遂げる為には職員一丸となり、新たな組織体制構築・強化の為、前例主義の見直しを徹底する等職員の意識改革が必須であると思われる。余りにも基本的事項ではあるが、職員一人ひとりがなすべきこと、そして組織として取り組むことは何かを問いかけ、その結果として目標の達成を実現する仕組みが必要である。あらたな時代に向け、職員一同、奮励努力し光栄ある未来に邁進する所存である。

1) 病院運営

外来については、建物の老朽化、狭隘なスペース等、環境的に恵まれておらず、近隣他大学や大病院と競合することが厳しい状況下にあったが、新病院においては、環境だけではなく、サービスを含め他病院との差別化を図り、高い目標に到達する所存である。また、総合診療科の効果的診療の実現により、今後の救急医療体制の充実(受入率上昇)等、様々な効果が期待できる。更に、逆紹介の積極的推進を進めており、平成 26 年度はその効果を検証できると考えている。

入院については、3月の小児科を主とした麻疹の流行により、一時小児患者を制限する等の措置を行った。大事に至る前の最適な判断であったと考えている。感染症の蔓延は、病院としての社会的責任を問われかねない重大な問題であり、今後も感染症については、重点観察事項とし、すばやい対応を行う所存である。

平成 25 年度は病院運営の効率化の方策として次の項目について取組をした。

- ① コールセンター設置による医療連携の推進による新規患者受入
- ② PSC（患者支援センター）を積極的に活用したきめ細かな患者対応
- ③ 退院支援による平均在院日数の低下
- ④ 逆紹介患者増による地域医療機関との信頼関係構築
- ⑤ 医師支援体制の構築による稼働率向上

- ⑥ 救急患者受入率向上による新規患者受入
- ⑦ クリニカルパスの促進による平均在院日数短縮
- ⑧ 特殊外来の設置による新規患者受入
- ⑨ 適切な予約体制の確立と待ち時間減による満足度向上
- ⑩ 放射線科をはじめとする検査体制の確立による早期検査の実現

2) 経費削減

特定保険材料については医事課・医療情報室と協力して請求漏れのないよう取り組みを行った。

医薬品支出については、継続的に購入費の確認を行い、支出動向の把握に努めた。

後発医薬品については、積極的な採用を行うことで平成 25 年度末での使用割合を約 30%とした。現在、4 病院一括で共通の後発医薬品への切替手続きが進められており、使用数量が多い内服薬を中心に順次採用し、平成 26 年度の早い時期にその割合を 80%に到達できる目途を付けることができた。

3) 医療連携

付属病院においては、病診連携の環境整備に積極的に取り組んでいる。医療連携室主催、共催の勉強会・講演会は計 25 回数え、その中でも 5 月 18 日開催の千駄木懇親会においては医療機関 89 施設 124 人、14 医師会 17 人の参加者を迎えることができた。また、平成 26 年 7 月からは紹介患者専用コールセンターを開設し、活動する予定である。各診療科においても外来責任医師を配置することにより、紹介患者の円滑な受入体制を整備した。その成果は、実際に現れており、平成 25 年 3 月における紹介率、逆紹介率はそれぞれ 57.2 点、24.6 点であったが、平成 26 年 3 月では 68.5 点、39.1 点と 11.3P、14.5P の増加となった。本院の目標である紹介率 50 点、逆紹介率 40 点にほぼ達成した。

患者支援センターにおいても早期に入院患者へ介入し退院支援をすることにより平均在院日数の短縮に貢献しており、平成 25 年度 14.67 日（H24 年度 15.06 日）となった。今後、更なる減床が計画される中、病診連携は重要であり、医療連携業務の役割は増している。

4) その他

平成 24 年は院内感染（アシネバクター）による病床利用制限を行ったが、平成 25 年度においても麻疹の院内感染により小児病棟の一時利用制限を強いられた。しかし一方で、院内感染対策として、平成 25 年 7 月に全職員に抗体検査を実施し、感染制御部・庶務課において検査結果及びワクチン接種の管

理を行うなど、対応策を積極的に進めており、院内感染が病院経営に大きな影響を与えない様、職員一丸となって感染症発生時の危機管理対策を進めた。

(2) 日本医科大学武蔵小杉病院

平成 25 年度の医療活動は以下の通りである。

- 1) 患者満足度の向上
 - ① 患者へのアメニティーの改善
 - ② 患者の待ち時間の緩和
 - ③ キャンサーボードの緩和チームによる疼痛ゼロキャンペーンの実施
 - ④ PSC（患者支援センター）の組織編成
 - ⑤ 各種公開講座の開催
- 2) 業務に関する改善
 - ① 各部署に人材を配置した結果、業務プロセスの改善となった。
 - ② タオル・病衣等の「入院セット」の「デリバリーと洗濯」システムを導入した。
 - ③ 医療分析室の設置
- 3) 学習と成長
 - ① 川崎市消防局と協働しているドクターカー事業に対し、消防局長から感謝状が贈呈された。
 - ② 看護部は各種の認定看護師、専門看護師、特定看護師等を計画的に育て、ボトムアップに繋げた。
 - ③ 感染制御部は各種感染症の発生に迅速に対応し、アウトブレイクの未然防止に貢献した。また定期的に感染防止セミナーを開催した。
 - ④ 医療安全管理部による医療安全管理講習会の開催：「当院で起きた医療事故の患者さんによる講演」等
 - ⑤ 医療保険委員会による保険診療講習会の開催：「平成 26 年度診療報酬改定について」等
 - ⑥ 研修医学術発表会を 3 回開催し、内 1 回は東京医科歯科大学・大友教授（本学卒）による講演を併せて行った。
 - ⑦ 研修医に、各診療科に関するプライマリーケアを中心とした研修セミナーを延べ 25 回開催した。
 - ⑧ 帝京大学溝口病院、社会医療法人財団石心会川崎幸病院、関東労災病院と合同で、研修医へのスキルトレーニングを実施した。
 - ⑨ 救命救急センターの医師が研修医の採用時オリエンテーションの一つとして*ICLS 講習会を実施した。

※ICLS 講習会・「ICLS」は「Immediate Cardiac Life Support」の頭文字を取った略語であり、突然の心停止に出会った際の対処法を学ぶ 医療従事者のための蘇生トレーニングコース。

⑩ その他講演会

(ア)岩田松雄氏による特別講演「ミッション：私たちの働く理由」

(イ)パワーハラスメント講習会

(ウ)小林事務部長による講演「アメリカの医療と医療施設（私立医科大学協会海外研修の報告）」

4) 医療収支の改善・高病床稼働率の維持・安定した黒字体質の確保

平成 25 年度は、黒字は確保できたものの、消費収支の対昨年度及び対予算は大幅に減少した。最大の原因は入院患者数の減少であった。収入が増えなかった一方、人件費が増えたため、人件費率は 48%となった。

(3) 日本医科大学多摩永山病院

南多摩医療圏における最も古い大学付属病院として設立され、今日ではこの医療圏東部地区の中核病院として機能している。医学生の実習、臨床研修医の研修のみならず薬科大学、看護専門学校の学生実習、さらに救命救急士の実習など各種研修指定を受けている。早期に開設された救命救急センターは医療圏における高次救急で中心的役割を果たし、H I V 拠点病院、東京都認定がん診療病院としても認定されている。内科では、特に不整脈領域の研究で西東京地区の中心的役割を担っており、産科・小児科領域では、24 時間の受け入れ態勢をとり、“母と子のネットワーク”により周産期医療連携を強化し、多摩市医師会の準夜診療に協力し、地域医療に貢献している。また、2006 年 4 月から「プライマリケア外来」を運営し、現在、250 施設を「日本医科大学多摩永山病院連携医療施設」として認定し、更なる病診連携・病病連携に取り組んでいる。

また地域社会への貢献活動により多摩永山病院を身近に感じて頂くことを目的として 8 月に多摩市内の小学 5・6 年生を対象とした「ブラック・ジャックセミナー」を多摩永山病院集会室で開催した。今回のセミナーは実際の医療現場での医師の仕事について、疑似体験を通じて「将来医師になりたい」「医療に関わりたい」など医師・医療への関心を持つきっかけとなり、これからの日本の医療を支える人材育成に貢献できればとの願いを込め実施した。

今後のより良い病院経営を検討・立案する際の基礎資料を得るため、現在の外来患者の実態や当院への評価・満足度を把握し、その問題点の改善や満足度の向上に役立てる目的として、平成 25 年 6 月 24 日～7 月 18 日、10 月 20 日～

12月7日の期間にかけて、新規患者の病院満足度調査（外来診療部門）を実施した。

多摩市内の各事業所における自主防災体制の充実、強化を図る目的で10月9日（水）に東京都中央卸売市場多摩ニュータウン市場で自衛消防操法大会が開催され、多摩永山病院から1号消火栓の部門に男子隊が出場した。

平成26年3月1日（土）に多摩市民及び近隣地域住民を対象に、第40回日本医科大学多摩永山病院公開講座を開催した。健康シリーズ「皮膚科でみるアレルギー」並びに「スギ花粉症の最新治療」というテーマで講座を実施した。

（4）日本医科大学千葉北総病院

ドクターヘリについて、平成13年10月から運航を開始し、平成16年度から千葉県のみならず茨城県とも協定を結び、同県の南部地域まで飛行範囲を広げ、平成25年度は1,053件の出動があった。様々な傷病の対応をしているが、中でも、外傷症例は全体の約半数を占め、全国的に見ても多くの症例を取り扱ってきた。また、格納庫の建設も行い、ドクターヘリの耐久年数が格段に良くなり、更なる安全運航の実践が可能となった。現在、ドクターヘリの運航時間については日中に限られているが、今後は各行政機関と更なる協力体制を構築し、夜間の運航を含めた24時間体制を築けるよう努力したい。

がん診療について、平成23年11月より、肺がん、胃がん、大腸がんについて、千葉県より「千葉県がん診療連携協力病院」の指定を受けているが、平成25年5月には子宮がんの追加指定を受けた。千葉県がん診療連携協力病院は16病院あり、その中で唯一千葉北総病院が4つのがんについて指定を受けている。また、がん診療の充実を図るために、9月に最新の放射線治療機器を導入した。

外来化学療法は実施件数が3,983件（前年度比+600件）であった。また、看護師の業務効率化の実現と最新の医療機器の導入により、消化器センターの内視鏡の実施件数は7,012件（前年度比+874件）であった。

手術件数は5,856件（前年度比+294件）であった。また、術式についても外保連試案に基づく手術技術度（難易度）集計においてD難易度（経験年数15年も専門医もしくは指導医が実施することができる手術）の手術件数が最も多かった。

終わりに、平成26年1月に開院20周年を迎えた。基幹病院として地域に根差した患者中心の医療を展開することを開院から今日までの指針としたが、平成25年度についても実践することができた。今後も引き続き病院の基本方針にあるように救急医療・高度先進医療を提供する指導的病院としての役割を担うべく発展したい。

(5) 日本医科大学成田国際空港クリニック

平成 25 年度は、成田国際空港の利用者数が平成 24 年度の 838,142,741 人に
対し、平成 25 年度は 874,184,520 人に増加したが、当クリニックが所在する第
2 旅客ターミナルは、航空会社再配置実施以降、第 2 旅客ターミナルの利用客数
は減少している。

さらに、空港内の事業者の組織再編に伴う統廃合などの要因が重なり、空港
内勤務者数がここ数年で、以前の 80%程度まで減少している。

このような外的要因の中、空港内クリニックとして、空港利用者・勤務者及
び近隣住民の健康管理に尽力することを責務として考え、事業計画に基づき、
以下の 3 点を重点的に強化した。

1) 救急体制の充実

一次救急診療所として、救急車等の受入態勢を充実させることができた。

2) 診療時間の延長

空港内勤務者が勤務終了後に当クリニックを受診したいという要望を踏
まえ、5 月より月曜日と木曜日の通常診療時間を従前の 17 時から 18 時終
了へと 1 時間延長をした。

3) 健診医療の拡大

平成 24 年度に引き続き、新規の健康診断受診者を獲得するために営業活
動を強化した。その結果、健診者が大幅に増加し、本年度は 2,210 人の実
績であり、過去 3 年の受診者数平均の約 65%増になった。

(6) 日本医科大学呼吸ケアクリニック

当クリニックの事業目的は下記 1～5 まで実践することであり、可能な限り
広域から患者を受け入れ、財源となる医療収入を確保して社会的貢献度を高
めることである。

1) 専門性の高い呼吸器診療を進めている。

2) インフォームド・コンセントを重視し、待ち時間の短縮など診療サービ スの向上を目指した。

3) 逆紹介を積極的に行い、開業医など広域にわたる医療連携を強め、高度

専門医療について指導力を発揮している。

- 4) かかりつけ医や一般市民を対象に、COPD・喘息・睡眠時無呼吸症候群等に関する教育啓発活動を実施した。
- 5) 臨床研究を推進し、質の高い医療活動を継続的に実践している。

平成 25 年度は患者数増を重点目標とした。以下がその方針である。

- 1) プライマリケア医との医療連携を図り、患者紹介につなげた。
- 2) COPD・喘息・睡眠時無呼吸症候群に関してマス・メディアを通じて、患者への情報提供を行い、重症度の高い患者受け入れ体制を整え、更なる患者数の獲得と医療の質を高めることにより、単価の高い医療を目指した。
- 3) 専門性の高い診療を続けるために、継続的な臨床研究を推進した。
- 4) 受診していただいた患者に定期的に、呼吸器疾患の新しい情報を提供していく方法を工夫した。

専門性の高い医療を展開し、患者へ情報提供を行い、きめ細かい丁寧な指導により、患者サービス全般の充実を図ることで、患者数増加に大きく貢献した。

今後、COPD・喘息・睡眠時無呼吸症候群と関連した合併症の診療を付属病院と連携・協力していき、診療レベルを向上させるとともに、かかりつけ医との幅広い地域連携を推進し、また全国各地の医師会などを通じて啓発活動を進めたい。

(7) 日本医科大学腎クリニック

- 1) ベッド数に制約があり、保険も包括化されていることから、付属病院だけでなく、他大学病院からの患者の受け入れを積極的に進めた。
- 2) 消化器内科との提携で行っている潰瘍性大腸炎に対するリンパ球除去療法の患者受け入れを積極的に行った。
- 3) 日本医科大学の付属施設であることから、通院患者の期待としては、急変時の付属病院への入院や、CT や超音波検査の簡便化などがある。しかし、付属病院の透析ベッドの少なさのために入院できず、他施設へ入院を依頼する事態が続いている。第 2 内科との連携を強めると同時に他大学との連携を模索した。
- 4) 付属病院の付属施設としての強みを生かすために、腎クリニックにも付属病院の電子カルテに接続された端末の導入を検討した。

(8) 平成25年度付属4病院診療実績

平成26年3月31日現在

区分	付属病院	武蔵小杉病院	多摩永山病院	千葉北総病院
1 病床数				
許可病床	1,002	372	401	600
稼働病床	899	372	350	592
2 患者数				
(年間)				
入院患者	277,009	119,410	108,857	178,289
外来患者	565,852	342,097	248,846	350,119
(一日平均)				
入院患者	757	326	297	487
外来患者	1,938	1,084	799	1,160
3 患者紹介率(%)	60.0	45.8	54.6	43.7
4 救急搬入患者数	5,841	3,286	2,739	3,800
5 収入 (千円)				
入院収入	20,371,506	8,236,853	6,986,324	12,703,131
外来収入	8,092,743	3,482,370	2,785,568	4,608,960
6 単価 (円)				
入院単価	73,541	68,980	64,179	71,250
外来単価	14,301	10,180	11,194	13,164

(9) 平成25年度クリニック等診療実績

平成26年3月31日現在

区分	健診医療センター	呼吸ケアクリニック	成田国際空港クリニック	腎クリニック
年間外来患者数	4,179	19,150	17,392	7,602
一日平均患者数	14	62	59	25
総診療収入(千円)	438,168	447,055	149,426	230,127
単価(円)	104,850	23,345	8,592	30,272

4.学 生 支 援 活 動

(1) 日本医科大学

1) 奨学金貸与枠の拡大

平成 25 年 4 月より、日本医科大学奨学金貸与規則を一部改正し、入学後に入学試験成績と人物評価を選考対象にした。15 名の応募があり、選考の結果、14 名に奨学金が貸与された。(総額約 1,500 万円)

2) 被災学生に対する授業料の免除

東日本大震災で被災した学生に対する授業料について、経済的な負担の軽減を図った。

3) 施設及び設備の見直し

学生が健康面において安心して勉学に励むことができるよう、医務室に血圧計等の備品を整備し、学生ホールに設置し活用している。また、学生の学習効率の向上を図るため、平成 25 年 9 月に図書館システムの更新を実施した。

(2) 日本獣医生命科学大学

1) 危機管理体制と危機対応能力の向上

災害発生時の対応能力向上と士気高揚を図ることを目的とした武蔵野消防署主催の審査会に自衛消防隊（女子 2 人隊）を結成して参加し、見事に優勝した。学生に対しては「学生のための危機管理マニュアル」を作成し、新入生オリエンテーションにて配布した。また、AED 講習会を年 2 回開催（学友会所属団体には各団体 2 名以上の参加を義務づけている）し、危機対応能力の向上を図った。

2) 保健センターにおけるサービス機能の充実

平成 25 年 11 月に業務委託契約をアポプラスステーション(株)と締結し、看護師不在時におけるバックアップ体制を構築した。

3) 就職支援の強化、キャリア形成に関する教育プログラムによる就職支援活動の強化

① 就職支援のマニュアル化・仕組みづくり

CDA 有資格者によるキャリアカウンセリング手法を導入し、各種フォーマットを作成、マニュアル化し、個別指導の仕組みづくりができた。

② 未内定学生の救済対策実施

「学内企業一次採用選考会」を企画実施し、8名の内定者を得た。

③ 父母会との連携強化

「父母会主催就職活動説明会」を今期より開催し、父母へ就職に関する理解を深めた。

④ 低学年キャリア教育の推進

「1年生：キャリア設計」（任意参加型）、「2年生：進路個別面談」（全学科全員参加）により、早期のキャリア設計を促した。

⑤ インターンシップの単位比検討

獣医学生の実インターンシップ受入は増えているが、獣医以外のインターンシップの受入先が少なく、受入企業の開拓含め、単位化を検討した。

（3）日本医科大学看護専門学校

- 1) 平成 25 年 7 月 19 日（金）に本校の学校説明会を開催し、320 名の学生が参加した。
- 2) 平成 25 年 10 月 12 日（土）に日本医科大学千葉北総病院主催で災害訓練が行われ、学生ボランティア 11 名が参加した。
- 3) 平成 25 年 10 月 18 日（金）、19 日（土）に本校の学校祭と併せ個別相談会を開催し、38 名が参加した。
- 4) 平成 26 年 1 月 15 日（水）20 時に教職員・学生全員の緊急連絡訓練を実施し、緊急体制の確認を行った。

5.国際交流活動

(1) 外国人留学生の受入れ状況

1) 平成 25 年度に受け入れた外国人留学生は以下のとおりである。

国 名	日本医科大学		日本獣医生命科学大学	
	総受入	新規受入	総受入	新規受入
中華人民共和国	11	8	5	2
台湾			7	7
大韓民国	2	1	1	1
タイ王国	9	9	15	14
ネパール連邦民主共和国	1			
ミャンマー連邦	1			
モンゴル国	1	1		
マレーシア	1			
カンボジア王国	1	1		
シリア・アラブ共和国			2	
アメリカ合衆国	7	7		
イギリス	2	2		
ベラルーシ共和国	1	1		
アラブ首長国連邦	1	1		
バングラデシュ人民共和国			1	1
小計	38 人	31 人	31 人	25 人

2) 平成 25 年度は、日本医科大学協定校から 18 人の留学生を受け入れた。

協 定 校 名	受 入 人 数
哈尔滨医科大学（中華人民共和国）	2 人
中国医科大学（中華人民共和国）	3 人
西安交通大学（中華人民共和国）	2 人
チェンマイ大学（タイ王国）	3 人
タマサート大学（タイ王国）	3 人
ジョージワシントン大学	3 人
ハワイ大学	2 人
合計	18 人

- 3) 日本医科大学奨学金により 15 人の留学生を受け入れた。
(日本医科大学 9 人、日本獣医生命科学大学 6 人)

国 名	人 数
中華人民共和国	6 人
大韓民国	2 人
タイ王国	2 人
台湾	1 人
モンゴル国	1 人
カンボジア王国	1 人
マレーシア	1 人
ベラルーシ共和国	1 人
合計	15 人

(2) 日本人学生の海外留学状況

- 1) 平成 24 年度に海外の協定校等に留学した学生は以下のとおりである。

日 本 医 科 大 学	人 数
ジョージワシントン大学 (アメリカ合衆国) (海外選択 BSL)	2 人
南カリフォルニア大学 (アメリカ合衆国) (海外選択 BSL)	2 人
タマサート大学 (タイ王国) (海外選択 BSL)	1 人
東カロライナ大学 (アメリカ合衆国) (海外選択 BSL)	1 人
米国国立衛生研究所 (アメリカ合衆国) (サマースチューデント)	2 人
チェンマイ大学 (タイ王国) (東南アジア医学研究会)	7 人
ラオス研修活動 (ラオス人民民主共和国) (東南アジア医学研究会)	7 人
IFMSA 交換留学 (ブラジル連邦共和国、トルコ共和国、フィンランド共和国、スペイン)	4 人
合計	26 人

日 本 獣 医 生 命 科 学 大 学	人 数
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	84 人
チェンマイ大学、コンケン大学、カセサート大学 (タイ王国)	46 人
マッセイ大学 (ニュージーランド)	20 人
中興大学 (台湾)	4 人
合計	154 人

- 2) 海外留学する日本医科大学医学部学生に対して 1,660,000 円を国際交流助成として支給した。
- 3) 平成 25 年度医学部学生留学報告会を平成 25 年 6 月 19 日（水）と平成 25 年 10 月 17 日（木）に行った。
- 4) 日本医科大学医学部学生留学報告書（Vol.6）を作成した。

（3）交流協定の締結状況

平成 25 年度末における交流協定の締結状況は以下のとおりである。

日 本 医 科 大 学	13 校
1. チェンマイ大学（タイ王国）	
2. 哈爾濱医科大学（中華人民共和国）	
3. 西安交通大学（中華人民共和国）	
4. 中国医科大学（中華人民共和国）	
5. ハワイ大学（アメリカ合衆国）	
6. ジョージワシントン大学（アメリカ合衆国）	
7. 南カリフォルニア大学（アメリカ合衆国）	
8. デンバーヘルス病院（アメリカ合衆国）	
9. タマサート大学（タイ王国）	
10. モンゴルがんセンター（モンゴル国）	
11. タイ王国救急医療庁（タイ王国）	
12. 延世大学（大韓民国）	
13. 浙江警察学院（中華人民共和国）	

日 本 獣 医 生 命 科 学 大 学	13 校
1. カセサート大学（タイ王国）	
2. コンケン大学（タイ王国）	
3. チェンマイ大学（タイ王国）	
4. チュラロンコン大学（タイ王国）	
5. 全南大学（大韓民国）	
6. 忠南大学（大韓民国）	
7. 東北農業大学（中華人民共和国）	
8. 内モンゴル農業大学（中華人民共和国）	
9. フェ農業森林大学（ベトナム社会主義共和国）	
10. クイーンズランド大学（オーストラリア）	
11. マッセイ大学（ニュージーランド）	
12. 中興大学（台湾）	
13. ラトビア農業大学（ラトビア共和国）	

(4) 留学生への支援活動

- 1) 外国人留学者研究会
平成 26 年 2 月 22 日 (土) 日本医科大学基礎医学大学院棟地下 1 階 4・5 実習室において、第 24 回外国人留学者研究会を開催し、発表演題は 15 題であった。
演題の中から、奨励賞 6 件、審査員特別賞 1 件を選び、各自に賞状及び副賞を授与した。
- 2) 外国人留学者学外研修
平成 25 年 7 月 6 日 (土) 東京ディズニーランドで行った。(引率者 4 人、留学生 26 人)
- 3) 奨学金等の支給
日本医科大学外国人留学者奨学金として対象者に 18,100,000 円を支給した。
- 4) 送別会の実施
平成 26 年 3 月 5 日 (金) に上野広小路において、留学修了者の送別会を行った。

(5) 大学間の国際交流 (日本医科大学)

- 1) チェンマイ大学総長一行 (10 人) が日本医科大学を表敬訪問した。(4 月)
- 2) 延世大学との学術交流協定締結記念シンポジウムを開催した。(6 月)
- 3) タマサート大学から田尻学長に名誉博士号が授与された。(8 月)
- 4) 中国・浙江警察学院と学術交流協定を締結した。(8 月)
- 5) チェンマイ大学から田尻学長に名誉博士号が授与された。(1 月)
- 6) 哈爾濱医科大学孫副学長一行 (4 人) が日本医科大学を表敬訪問した。(1 月)
- 7) タマサート大学総長一行 (6 人) が新たな協定締結のために日本医科大学を表敬訪問した。(2 月)
- 8) 平成 25 年 7 月 31 日 (水) に第 4 回全国医科大学国際交流センター連絡協議会が東京女子医科大学で開催された。日本全国から 22 大学約 40 人の国際交流担当者が参加した。連絡協議会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中、熱心な情報交換が行われた。

6.地域連携活動

(1) 日本医科大学

1) 連携事業

大学キャンパス講座として、明治薬科大学との共同企画により、文京区に在住・在勤の社会人を対象に「遺伝子」をテーマとして、12月に2回実施した。

2) オープンキャンパス

学習意欲のある質の高い学生を安定的に確保することを目的とした学生募集を推進した。大学説明会や受験生のニーズに合わせたオープンキャンパス等を2回実施した。

(2) 日本獣医生命科学大学

1) 総合文化講座・寄付講座・遊学講座・父母講座・大学公開講座の継続

2) 武蔵野地域五大学共同教養講座・講演会の実施

武蔵野地域自由大学の学生や市民等を対象に、食と生活（食品科学の概論・食育・食の生産・食と健康・食の安全他）、人と動物（動物福祉・ペットの健康・動物の疾患・人獣感染症・身体障害者補助犬他）を始めとした30回以上の公開講座を実施した。

3) 動物とのふれあい教室・親子乗馬会の実施

4) 介護療法としての障害者乗馬の実施

三鷹市あおやぎ公園（5/25）と明星大学グラウンド（11/17）において、各300名を越す参加者のもと開催した。

5) 各団体との連携

武蔵野地域自由大学・三鷹ネットワーク大学、多摩ネットワーク大学と引き続き連携をとりながら、地域住民の生涯学習の場を提供した。

6) 連携大学院

大学院連携を締結している明治薬科大学大学院と単位互換制度の構築に向けた検討を継続している。

Ⅲ 財 務 の 概 要

1. 資金収支計算書

(収入の部)

(単位:百万円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
学生生徒等納付金収入	6,007	6,158	6,262	6,304	6,435	131
手数料収入	225	234	239	242	267	25
寄付金収入	1,528	884	879	888	792	△ 96
補助金収入	4,966	4,418	5,307	5,314	5,767	452
資産運用収入	646	644	582	580	611	31
資産売却収入	0	0	0	500	0	△ 500
事業収入	1,564	1,678	1,557	1,867	1,990	123
医療収入	63,063	64,489	65,935	66,229	67,912	1,684
雑収入	794	1,159	923	1,211	827	△ 384
借入金等収入	23,100	17,700	13,050	15,800	17,032	1,232
前受金等収入	1,448	1,450	1,426	1,413	1,400	△ 14
その他の収入	11,500	11,258	12,129	12,999	13,401	402
資金収入調整勘定	△ 12,913	△ 13,471	△ 14,378	△ 14,766	△ 15,312	△ 545
前年度繰越支払資金	1,892	3,118	3,930	1,946	1,231	△ 715
収 入 計	103,820	99,720	97,841	100,528	102,354	1,826

(支出の部)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
人件費支出	35,914	36,680	37,125	37,576	38,167	591
教育研究経費支出	32,504	33,262	34,001	34,238	35,309	1,071
(医療経費支出)	(21,440)	(21,561)	(22,531)	(22,375)	(23,614)	(1,239)
管理経費支出	3,446	4,170	3,961	3,630	4,159	529
借入金等利息支出	840	938	867	812	740	△ 72
借入金等返済支出	15,831	16,125	13,449	15,499	15,288	△ 212
施設関係支出	9,127	3,951	2,312	3,279	4,416	1,136
設備関係支出	2,520	3,876	4,051	2,624	3,549	924
資産運用支出	0	100	200	700	0	△ 700
その他の支出	8,801	8,223	10,474	10,230	11,284	1,054
資金支出調整勘定	△ 8,282	△ 11,537	△ 10,545	△ 9,292	△ 12,907	△ 3,615
次年度繰越支払資金	3,118	3,930	1,946	1,231	2,351	1,119
支 出 計	103,820	99,720	97,841	100,528	102,354	1,826

2－1.消費収支計算書

(収入の部)

(単位:百万円)

区 分	平成25年度		
	予 算 ①	決 算 ②	差 異 ①-②
学生生徒等納付金	6,455	6,435	20
手数料	225	267	△ 42
寄付金	907	836	71
補助金	6,106	5,767	339
資産運用収入	617	611	6
事業収入	1,831	1,990	△ 159
医療収入	70,330	67,912	2,417
雑収入	684	829	△ 145
帰属収入計(A)	87,155	84,647	2,508
基本金組入額	△ 7,061	△ 4,436	△ 2,625
消費収入計(B)	80,094	80,211	△ 117

(支出の部)

区 分	平成25年度		
	予 算 ①	決 算 ②	差 異 ①-②
人件費	38,416	38,086	330
教育研究経費	40,157	39,609	548
(医療経費)	(23,304)	(23,397)	(△ 93)
管理経費	4,629	4,367	261
借入金等利息	841	740	101
資産処分差額	223	231	△ 8
徴収不能引当金繰入額	110	75	35
予備費	200	0	200
消費支出計(C)	84,575	83,108	1,467
帰属収支差額(A)-(C) (基本金組入前)	2,580	1,539	1,041
消費収支差額(B)-(C) (基本金組入後)	△ 4,481	△ 2,897	△ 1,584

2－2.消費収支計算書

(収入の部)

(単位:百万円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
学生生徒等納付金	6,007	6,158	6,262	6,304	6,435	131
手数料	225	234	239	242	267	25
寄付金	1,584	928	917	921	836	△ 85
補助金	4,966	4,418	5,307	5,314	5,767	452
資産運用収入	646	644	582	580	611	31
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
事業収入	1,564	1,678	1,557	1,867	1,990	123
医療収入	63,063	64,489	65,935	66,229	67,912	1,684
雑収入	794	1,159	924	1,212	829	△ 383
帰属収入計(A)	78,848	79,710	81,723	82,668	84,647	1,979
基本金組入額	△ 3,562	△ 2,014	△ 4,679	△ 4,866	△ 4,436	430
消費収入計(B)	75,286	77,696	77,044	77,802	80,211	2,409

(支出の部)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
人件費	36,288	36,525	37,280	38,244	38,086	△ 158
教育研究経費	35,949	36,872	38,257	38,728	39,609	881
(医療経費)	(21,430)	(21,517)	(22,553)	(22,378)	(23,397)	(1,019)
管理経費	3,722	4,401	4,298	3,866	4,367	501
借入金等利息	840	938	867	812	740	△ 72
資産処分差額	41	404	243	45	231	186
徴収不能引当金繰入額	167	144	82	93	75	△ 18
消費支出計(C)	77,007	79,285	81,026	81,787	83,108	1,321
帰属収支差額(A)-(C) (基本金組入前)	1,841	425	697	881	1,539	658
消費収支差額(B)-(C) (基本金組入後)	△ 1,721	△ 1,590	△ 3,982	△ 3,985	△ 2,897	1,088

3. 貸借対照表

(単位:百万円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
(資産の部)						
固定資産	96,460	100,156	101,980	103,356	106,435	3,079
有形固定資産	95,189	98,768	100,365	101,536	104,584	3,048
土 地	21,687	21,694	21,990	22,126	22,126	0
建 物	50,639	50,748	49,218	48,348	51,188	2,839
構築物	1,594	1,544	1,461	1,604	1,672	68
教研用機器備品	8,323	10,019	11,292	10,976	11,415	439
図 書	4,165	4,224	4,285	4,310	4,355	44
建設仮勘定	8,506	10,249	11,808	13,880	13,516	△ 363
その他	274	289	311	292	313	21
その他の固定資産	1,271	1,388	1,615	1,820	1,851	31
流動資産	14,957	16,509	15,423	15,121	17,026	1,906
現金預金	3,118	3,930	1,946	1,231	2,351	1,119
未収入金	11,337	12,070	12,983	13,391	13,964	573
その他	501	509	493	498	711	213
資産の部合計	111,417	116,665	117,403	118,477	123,461	4,984
(負債の部)						
固定負債	51,734	55,107	53,902	54,947	56,660	1,713
長期借入金	35,421	37,760	35,944	36,937	39,336	2,399
退職給与引当金	16,125	15,970	16,125	16,792	16,711	△ 81
長期未払金	188	1,377	1,833	1,217	612	△ 605
流動負債	21,953	23,404	24,649	23,798	25,529	1,732
短期借入金	11,825	11,061	12,478	11,786	11,131	△ 655
短期未払金	7,942	10,147	9,920	9,739	12,153	2,413
前受金	1,448	1,450	1,426	1,413	1,400	△ 14
その他	738	746	825	859	846	△ 13
負債の部合計	73,687	78,510	78,552	78,744	82,189	3,445
(基本金の部)						
第1号基本金	138,347	139,079	143,542	148,193	152,511	4,318
第2号基本金	0	100	300	500	500	0
第3号基本金	58	58	58	58	58	0
第4号基本金	5,979	5,979	5,979	5,979	5,979	0
基本金の部合計 (A)	144,384	145,216	149,878	154,730	159,047	4,318
(消費収支差額の部)						
翌年度繰越消費支出超過額	△ 106,654	△ 107,061	△ 111,027	△ 114,997	△ 117,776	△ 2,778
消費収支差額の部合計 (B)	△ 106,654	△ 107,061	△ 111,027	△ 114,997	△ 117,776	△ 2,778
(負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計)						
負債、基本金及び消費収支差額の部合計		111,417	116,665	117,403	123,461	6,058

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度
自己資金計 (A)+(B)	37,730	38,154	38,851	39,732	41,272	1,539
自己資金比率	33.9%	32.7%	33.1%	33.5%	33.4%	-0.1%

4. 財産目録

平成25年度 財 産 目 録

I 資産総額	123,461,014,170円
内 基本財産	105,484,909,390円
運用財産	17,976,104,780円
II 負債総額	82,189,312,251円
III 正味財産	41,271,701,919円

区 分	金 額
-----	-----

資産額

1 基本財産		105,484,909,390 円
土地	926,876.49 m ²	22,126,118,995 円
建物	274,212.22 m ²	51,187,526,898 円
構築物		1,671,791,773 円
教育研究用機器備品	12,891 点	11,414,773,852 円
その他の機器備品	960 点	239,072,263 円
図書	407,060 冊	4,354,639,300 円
その他		14,490,986,309 円
2 運用財産		17,976,104,780 円
現金預金		2,350,634,945 円
その他		15,625,469,835 円

資 産 総 額 123,461,014,170 円

負債額

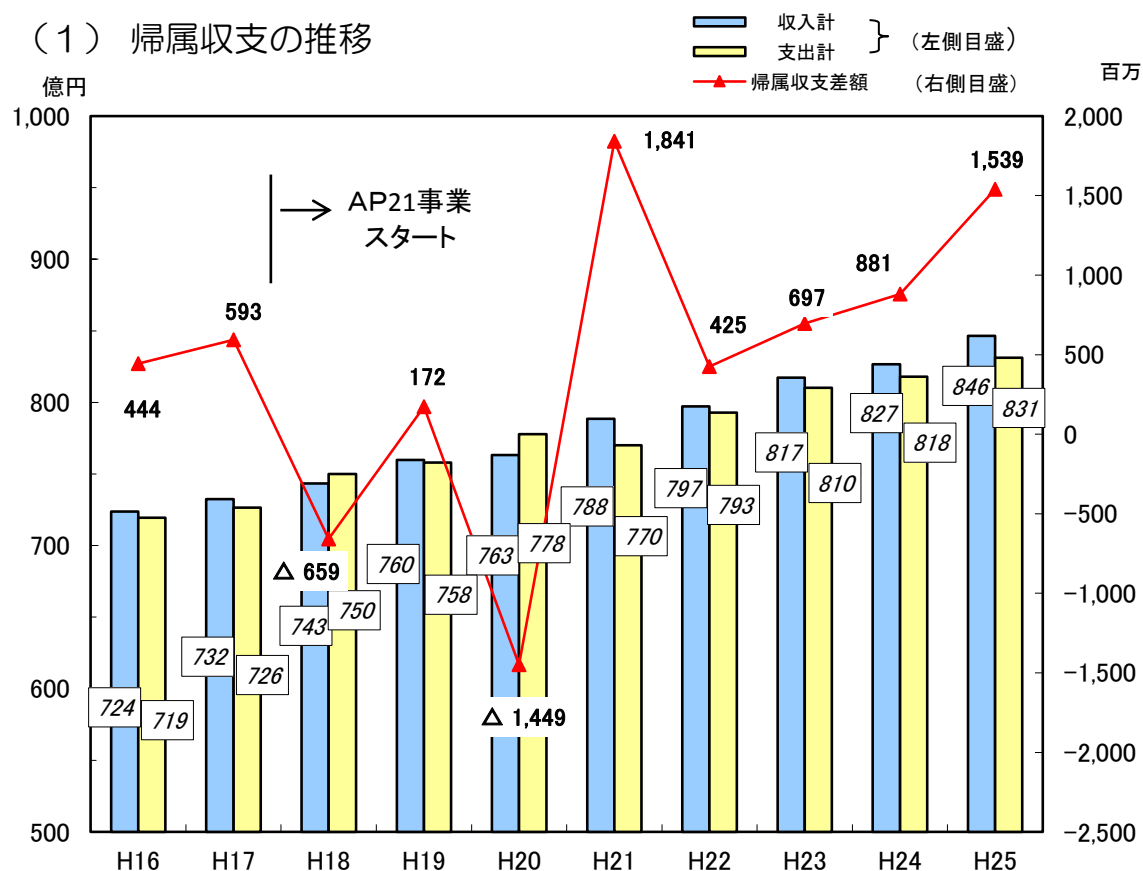
1 固定負債		56,659,965,442 円
長期借入金		39,336,421,000 円
その他		17,323,544,442 円
2 流動負債		25,529,346,809 円
短期借入金		11,130,912,000 円
その他		14,398,434,809 円

負 債 総 額 82,189,312,251 円

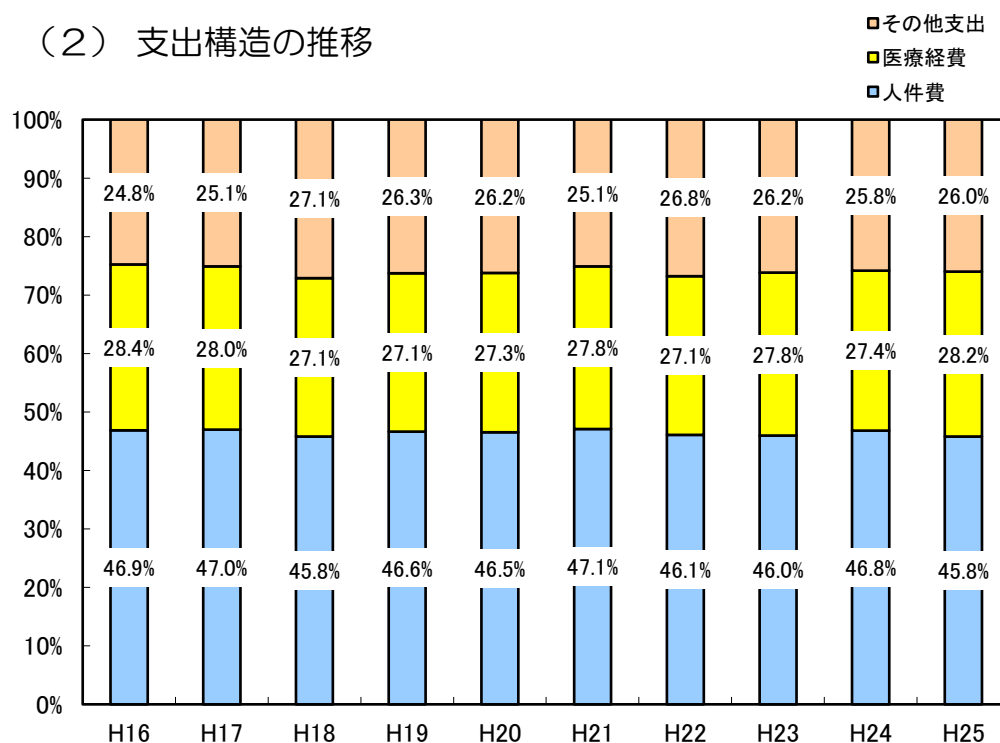
正味財産（資産総額－負債総額） 41,271,701,919 円

5. 財務状況の推移

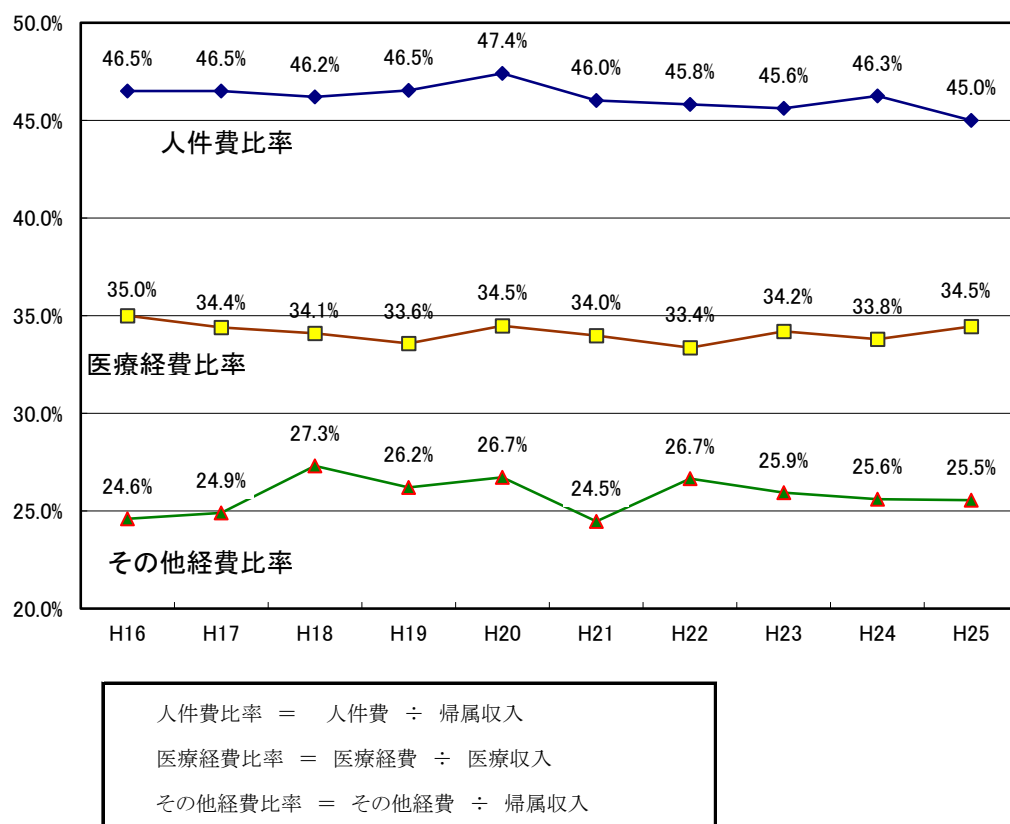
(1) 帰属収支の推移



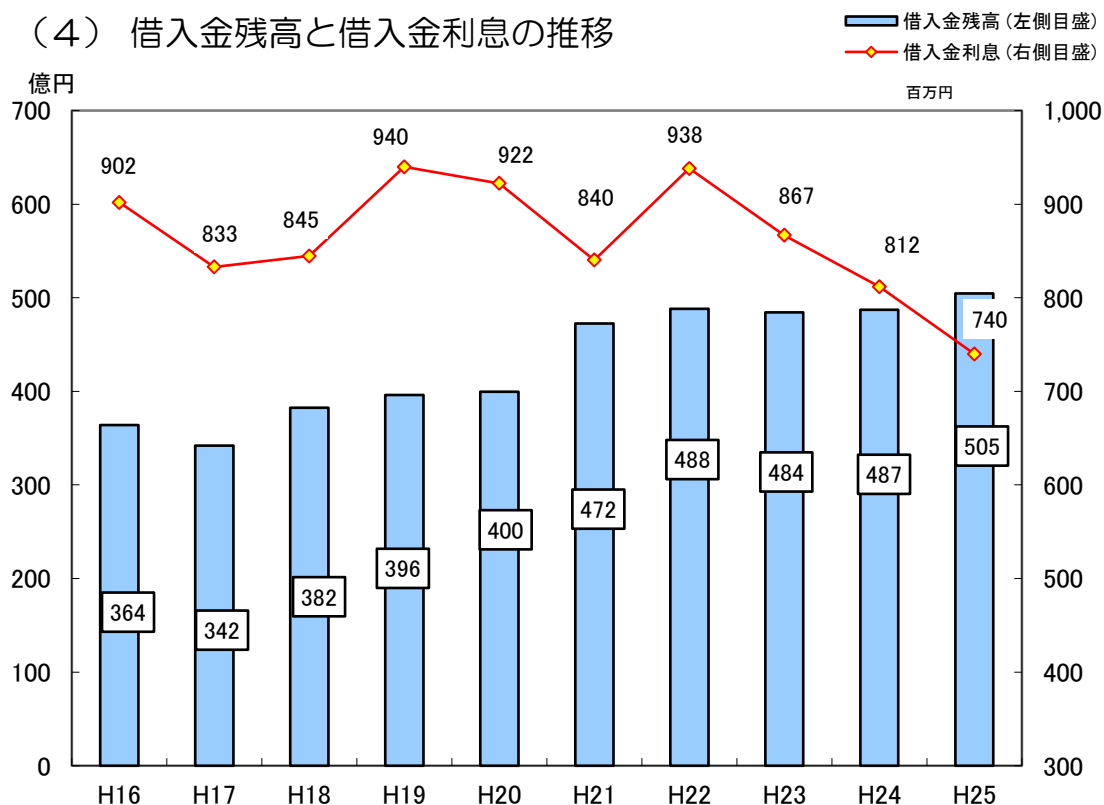
(2) 支出構造の推移



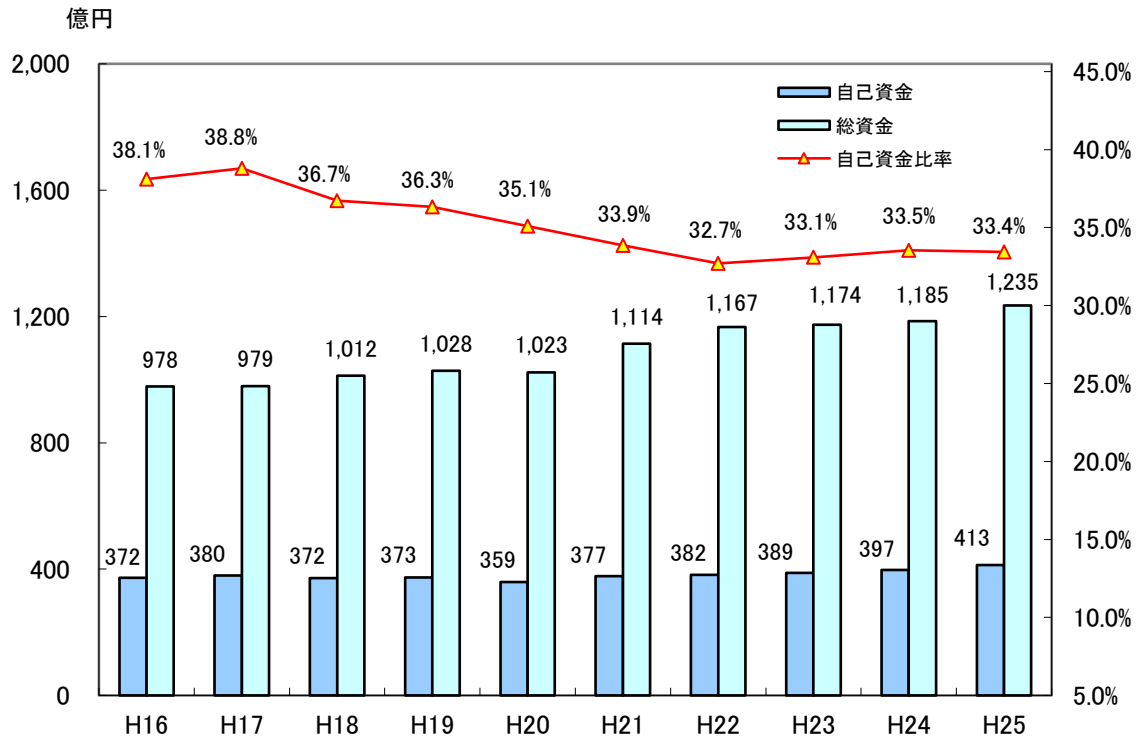
(3) 主要経費率の推移



(4) 借入金残高と借入金利息の推移



(5) 自己資金比率の推移



【財務状況の推移(まとめ)】

- ・ 帰属収支差額は、15.3億円の収入超過となった。
消費収支計算書の対前年度比較では、
収入は、医療収入及び補助金収入が増加し、合計で19.7億円増加した。
支出は、教育研究経費及び管理費は増加、人件費は減少し、合計で13億円増加した。
その結果、帰属収支差額は6.6億円増加した。
- ・ 主要経費率の前年度対比をみると、人件費比率は1.7%の低下、医療経費比率は0.7%の上昇となった。
- ・ 借入金残高は、前年度より17億円増加した。